



愛知陸協広報

第20号

23年1月1日発行

愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

e-mail ark@marble.ocn.ne.jp

ホームページ: url http://gold.jaic.org/jaic/member/aichi/



新年を迎えて

理事長 外山 幸男

新年明けましておめでとうございます。

新しい年にあたり昨年を振り返りつつ、本年の展望を述べさせていただきます。

日本ジュニア・ユース選手権大会は好天に恵まれ、素晴らしい大会となりました。16年ぶりに愛知に帰ってきた日本ジュニア大会と、第4回の日本ユース大会のダブルの大会となり準備・大会運営で初の経験が数多くありました。申込「508」団体のメールチェックと申込書・参加料入金の照合と問い合わせ確認は、予想を遙かに超える状態になりました。全国大会の競技会運営をスリム化する日本陸連の指導のもと、競技役員・補助員の人数を制限しての編成となり、随分無理をしての大会3日間の運営になりました。競技の結果は大会新記録18、大会タイ記録4、日本高校新記録が1つ誕生しました。地元愛知の選手もジュニア女子200m・ユース女子走高跳・ユース男子走高跳の3種目に優勝する活躍により、充実感と快い疲労感を覚えました。招待リレーの小学生と中学生にとっては、高いレベルの大会の見学ができ、将来の目標になる大会になりました。

競技役員、補助員の皆さんに改めて感謝いたします。来年度に向けての課題も数多く見つかりましたが、反省を生かして継続開催することにより改善に努めていきます。

千葉国体は4×100mリレーが男女とも5位入賞を果たしましたが、全般的には期待どおりの成績ではありませんでした。来年度以降に向けて、強化委員会においてこの結果を分析することで、今後の強化目標が明らかになっていきます。

中学生の出場するジュニアオリンピック大会では、今年も愛知の活躍が光りました。特に県選抜チームで臨んだ4×100mリレーにおいては、女子が大会新・県中学新で優勝することができました。女子C100mでも優勝しました。今後さらに高い目標に向かってステップアップを期待します。

12月12日に中学生を対象とした(財)日本陸連主催のJAAFジュニア発掘育成プロジェクトU-15陸上教室を、瑞穂陸上競技場において開催しました。参加する機会に恵まれた中学生は、その場で習得した高いレベルの技術を、各学校に持ち帰り自己の技術の向上に努めるとともに他の部員に伝えてください。

都道府県対抗女子駅伝(京都1月16日)・男子駅伝(広島1月23日)の選手団が決定しました。代表の選手は「チーム愛知」のもとに、上位を目指して「たすき」を繋いでくれることを期待します。

2012年3月のナゴヤウイメンズマラソン(仮称)開催に向けて、愛知陸協の準備を推進していきます。トップランナーは記録にチャレンジすることで日本代表を目指し、一般参加のランナーは名古屋の名所・旧跡をめぐる魅力あるコースを楽しみ、全国から女性マラソンランナーが名古屋の街に集結する光景を期待します。

2011年の全国大会としては8月に日・韓・中ジュニア交流大会を瑞穂で開催します。3カ国代表に加え地元愛知の代表も出場することができます。高校生諸君は選考されるよう、事前の大会で頑張ってください。

競技会日程では、全国高校総体(IH)が岩手で8月3日から、山口国体が10月7日から、さらに日本ジュニア・ユース大会が瑞穂で10月21日からの開催になります。アジア選手権が7月7日から神戸で、世界選手権が8月27日から大邱(韓国)で開催されます。昨年世界ジュニア選手権入賞の市川華菜さん、鈴木亜由子さん、伊澤菜々花さん、アジア競技大会のメダリスト室伏由佳さん、中田有紀さんはじめ、愛知の選手が日本代表に1名でも多く選出され、大会で活躍することを期待します。

「陸上愛知」の復活に近づくことを期待し、今年も選手強化、競技会運営に一層のご協力をお願いします。

有功章を受章して

この度、愛知陸協、東海陸協の推薦をいただき、日本陸連有功章を受賞することができました。推薦理由の文書原案作成および東海陸協提出用書面の作成をしてくださった稲垣裕副理事長をはじめ、ご支援くださいました方々に厚くお礼申し上げます。

授与式は、第65回国民体育大会の開催期間中の10月2日に千葉総合スポーツセンター陸上競技場でありました。有功章、秩父宮章、両章の授与式が続けて行なわれましたが、今回の有功章受章者は千葉陸協会長の野村和氏と私の二人でした。受章時、北村肇強化委員長、伊藤明久強化委員会幹事長が声援用看板を作ってください、選手団をスタンドに集合させて大きな声援を送ってくださいました。その光景は、



今も脳裏に焼きついております。

日本陸連懇親会では、拍手の中、予定の席に誘導していただきました。席上、陸連の河野会長から「今日の酒はうまいだろう」と声をかけられました。野村氏と私のところへ、河野会長、中曾根副会長等3名、澤木専務理事が入ってきて記念撮影もありました。私にとっては、記憶に残る一日となりました。

*陸連規定 有功章——加盟団体を通じて、日本陸上競技界功労のあった者に贈与する。各年度2人以内。

*栄章審査委員会審査基準

- ①地域陸協、加盟団体の会長、副会長、理事長6年以上。
 - ②日本陸連の運営に永年貢献した者。 ③60歳以上。
 - ④秩父宮章受章者。
- ◎本年度、有功章の他に県教育文化功労者表彰、名古屋生涯スポーツ功労者表彰を受ける。

支 部 報 告

名古屋支部

『冬に鍛える』

平成22年度のトラックシーズンは、10/30・31の支部選手権をもってほぼ終了。今年度から名古屋で日本ジュニア・ユース大会が開催され、支部選手権は遅い開催となった。しばらくはこの状況となるが、これで高校新人・国体・ジュニアユース・支部選手権と並ぶことになり、秋の後半に好記録の狙える一年の締括りの大会が整った。支部選手権優勝者には、トロフィーを授与した。各選手諸君には、来シーズン、一層の飛躍を期待している。冬期練習を今までの数倍行ない、自己改造に取り組んでほしい。まだこれからも、駅伝・ロードレース大会が続く。長距離選手には、夏から鍛え上げた成果を十分発揮してもらいたい。

1 支部選手権優勝者は、下記の通りです。

支部選手権優勝者

※ GR : 大会新記録

	男子		女子	
100m	服部 辰也	10.88	山田 恵里	12.55
200m	三輪 将之	21.59	山田 恵里	24.93
400m	瀧本 悟吾	49.38	鷹羽 桃子	57.82
800m	黒川 大地	1.56.23	竹内麻里子	2.15.60
1500m	林 勇樹	4.00.91	今泉 志穂	4.39.37
5000m	野崎 洋平	14.48.16	山下由都季	17.29.47
10000m	加藤 雄貴	32.12.57		
110mH	飯田 将之	14.04		
100mH			山崎由加里	14.09
400mH	山内 博貴	52.64 (GR)	石田 朋美	1.02.43
3000mSC	清水 充人	9.15.98		
4×100mR	中京大中京高	41.94	中京大中京高	47.36 (GR)
4×400mR	中京大中京高	3.19.18	中京大中京高	3.51.66 (GR)
走高跳	舟瀬 勇太	2.06	炭 水土里	1.61
棒高跳	近田 竜雅	4.80	高木 志帆	3.20
走幅跳	西 航司	7.26	布施 和花	5.55
三段跳	金田 純弥	15.13	小川 詩織	12.13
砲丸投	小山祐一郎	12.62	近田 茜	11.72
円盤投	福井 大輝	33.75	加藤 千枝	39.42
やり投	吉田 俊哉	62.61	吉野 菜美	43.23

2 今後の予定

①愛知陸協・支部陸上教室

☆瑞穂会場 (1/8、1/22、予備日2/19)

※投てきは知多で (1/9、1/23、2/6)

☆半田会場 (1/8、2/12、予備日3/5)

②名古屋支部普及競技会 (知多、愛日)

☆小学生大会 (2/5、2/26)

☆中学生大会 (1/29、3/26)

③審判伝達講習会 (3/19・20)

(坂井田酵三)

尾張支部

★愛知スポーツ・レクリエーションフェスティバル

マスターズ陸上競技大会

10月24日(日)、愛知県一宮総合運動場陸上競技場において2010年マスターズ陸上が開催された。当日は県内各地(一部県外)から92名の選手が参加され、各種目に日頃の練習成果を発揮すべく健脚を競われた。最年長は80歳代、最年少は30代前半の方で男子79名、女子13名の参加であった。昨年は90歳代の方も参加されたが、本年は少し年齢幅が縮小した形だ。エントリーは各年代とも

60m、100m、200mあたりの短距離種目が多く、中、長距離種目については各年代、男女混合レースも実施された。賞状は1位から3位まで準備されているので、3名以内のエントリーの場合は全員が賞状をもらえるという記念になるレースも何レースかあった。フィールド種目は一部を除いて参加が少なく、競技役員とコミュニケーションをとりながらの競技もみられ、この競技会独特の雰囲気を出していたようだ。若い頃から腕?に覚えのある方がいらっしゃる一方で、健康のために始められ、競技会参加の夢を果たされたランナーも数多くいらっしゃった。役員としてサポートしながら、来年は自分も出てみたいと思ってしまふようなスピリットに触れることができた。

この大会は愛知県の主催事業であり、非公認競技会である。そのため一部の熱心な競技者の中には公認扱いにならないのかと言われる方もいた。開催が一宮ということもあり、交通アクセスがあまり良くないという指摘をいただいているが、次年度以降の参加が増えることを望んでいる。それぞれの目標に向かい楽しく参加できる大会なので、今年不参加の方には是非来年お友達と誘い合っでご参加ください。

また、当日補助員としてご協力くださった津島北高校陸上競技部の皆さんにお礼を申し上げます。ありがとうございました。



★競技会便り…本支部所属のジュニア、高校生の活躍の足跡を掲載します…下記に掲げる選手諸君が素晴らしい成績を残してくれました。来期の更なる飛躍を期待しています

①東海高校新人大会 (10月23・24日 静岡 草薙)

男子

山田涼馬 (一宮2) 400m 1位 48.20

植村英佑 (滝2) 400mH 2位 53.30

戸松弘成 (一宮西2) 5000mW 2位 22.30.46

墨 訓熙 (起工2) ハンマー投 (6.0kg) 1位 61.62 (大会新)

女子

近藤 瞳 (津島北2) 円盤投 (1.0kg) 4位 35.28

②日本ユース陸上競技選手権大会 (10月15～17日 名古屋 瑞穂)

男子

山田涼馬 (一宮2) 400m 4位 48.50

墨 訓熙 (起工2) ハンマー投 (6.0kg) 3位 57.33

(原川 豪)

西三河支部

若い力の台頭

今年の国体少年の部に、西三河から3名の高校生が出場し、全員が入賞という快挙を成し遂げました。それぞれの顧問の先生方からの選手を称える言葉と喜びをここに紹介し、支部の慶びの気持ちとしてお伝えしたいと思います。

初めは、少年男子B走幅跳第3位入賞の二宮聡史選手です。「二宮選手の好成績の要因として強い体幹部とばねの利いた躍動感あふれる走りが挙げられます。また身体面だけの強さではなく誠実・実直な人柄が今回の成績に結び付けたと言えます。この成果は本人の努力もさることながら中学時代に適切に指導していただいた先生や家族の支援、互いに競い合い、励まし合う仲間が存在が彼を大きく伸ばしたと言っても過言ではありません。今後はこの成績に満足することなく、次へのステップとして捉え、インターハイにおいても同様の成果を出せるように冬のトレーニングに励んでほしいと思っています。」(岡崎北高校 内田年一)

続いて、少年男子共通棒高跳第4位入賞折田尚也選手です。「折田本人が『国体は自分が生まれ育った愛知県のためにできる限りの力を注ぐこと、一点の重みを感じるこ

と』これらを自覚することによってモチベーションが高まり、千葉国体を迎えることができました。(好事魔多し)試合当日のウォーミングアップ中に右大腿部前部の軽い肉ばなれを起こしてしまいましたが、トレーナーチームの万全のテーピング、愛知県コーチ陣の激励により、何とか4m95を跳び4位に入賞できました。応援して下さった皆様に心から感謝いたします。」(三好高校 寺島 貴)

最後に、少女女子B走幅跳第5位入賞浅井真子選手です。「10月1日大会当日は快晴で迎えた。32名の参加で少年B走幅跳決勝が行なわれた。浅井真子は1回目フェール。2回目フェール。トップ8に残るには5m61を跳躍しないと残れない緊張の勝負場面を迎えた。この記録は昨年浅井が、全日中2位で跳躍した記録だ。3回目の跳躍のピットに立った浅井は集中していた。跳躍時間を示すランプが変わろうとするとき助走開始、踏み切った。旗は白。スタンドのどよめきの中【5m67】のアナウンス。一気に4位に位置した。トップ8に入り、4回目5m66。5回目5m63。6回目5m47と何とこの土壇場で自己新記録を3回マークした。結果5位入賞を果たした。浅井真子の持



ホープさん⑭

萩原加奈子さん(豊橋市立高豊中3年)

全日中女子100mハードル2位。この結果は、それまでの彼女のひたむきな努力の成果と言えよう。

そんな彼女が陸上競技に出会ったのは、小学2年生の頃だそうである。走ることが得意だった彼女は、小学生の頃からめきめきと頭角を現した。小学6年生では、80mハードルで全国小学生陸上競技交流大会への出場権を獲得した。結果は残念ながら予選敗退。100分の1秒という僅かな差で準決勝への進出を逃すという悔しい思いを残すこととなった。しかし、そこから彼女の陸上に対する意識は一変する。練習にもさら

なる磨きがかかり、練習量や集中力は他の誰にも負けることはなかった。そしてその意識は、中学校に入学しても変わることはなかった。

まず、彼女のすごい所は、様々なアドバイスや指示を謙虚に受け入れ、自分に必要な練習を考え、しっかりと行なえる実行力である。中学1年生のころ、100mハードルで県大会出場を決定するものの、後半のスピードに伸び悩んだ時期があった。そこで、彼女はコーチや顧問のアドバイスを参考に、200mにもチャレンジし、スプリント力を高める決心をする。その後、ハードルの練習とは別に、さらに中距離練習にも自主的に参加し、一層スプリント力や持久力を高めていくこととなった。

そして、練習に対する情熱もすばらしい。彼女の練習に一切の妥協はない。普段から部活動の練習と豊橋陸上クラブの練習を両立しているが、練習に対する弱音や文句を聞いたことは一切ない。どんな練習にも一生懸命取り組むその姿は、まさに努力の人と言うにふさわしい。

さらに、温和で誠実な人柄である。彼女は部活内ではキャプテンでもあり、自分の練習の他にも、回りのチームメイトに気を配り、まとめていくという役割をしっかりと担っている。厳しい練習では後輩に声をかけたり、練習方法などの相談にも乗ったりすることができ、後輩からの信頼も厚い。また、礼節をわきまえ、部活動中のあいさつや返事はだれよりもしっかりと行なうことができる。

そんな彼女が全日中の競技を終えたとき、ぼつりとつぶやいた言葉が「悔しかった」という一言である。100mハードル国体少年Bの部6位、全国2位という実績、そして、14秒09という記録で愛知県中学記録を大幅に更新した彼女は、更にその上を見据えている。夢は大きく、目指すは全国の頂点!近い将来、成長した彼女がすばらしいアスリートとなり、その夢を実現できることを切に願っている。

(陸上部顧問 白井 英昭)



県中学通信決勝



2009年東海大会を終えて(本人㊟)

学校紹介⑩ 作野小学校 県大会で個人、リレーともに活躍

今回は、県大会で毎年のように活躍を見せる安城市の作野小学校を訪問しました。作野小学校は、今年の県大会でも個人8種目、リレー1種目で入賞し、ユース選手権の招待リレーにおいては学年ごとの全種目に招待されました。訪問当日はあいにくの雨で練習がなく子どもたちの様子を目にすることはできませんでしたが、小学校ではどのように活動が行なわれているかを、指導の中心者である小林良博先生、そして校長先生、教頭先生にお聞きしました。

後日、活動の様子を写真に収めて送っていただいていますので、報告の文章と合わせてご覧ください。



手作り金メダル

作野小学校が毎年のように活躍できるのには、学校をあげての体制にあるように思われました。その点を、まず3点報告します。1点めは、種目を絞ったクラブ活動という点です。今年は合唱が加わって4つが活動しているとのことですが、例年は陸上、マーチング、園芸の3つに絞って課外活動が行なわれています。課外活動の数が多いと先生も児童も分散してしまい、強くなるまでいかに思われます。その点、数を絞ったうえでの活動は、多くの児童が集まり、指導の先生の数も多くなるために充実した活動になります。強制参加ではなく希望者のみにも関わらず、実際のところ、4年生から6年生までの陸上部員が今年は170名ほど(児童数全体は各学年ほぼ140名)とのことでした。これには、3年生の3学期に行なわれる体験入部が好影響を与えているのだそうです。教頭先生は、みんな楽しくやっていますよとおっしゃっていました。指導にあたる先生も7名と、充実した体制になっています。

2点めは、指導にあたる先生どうしの連携です。作野小学校では、先生方は必ずいずれかの部の指導にあたることになっています。そうすると、指導にあたる先生の中には当然経験のない先生も含まれることとなります。陸上部の場合、経験者は小林先生を含めて2人だそうです。この2人がキーマンにはなるわけですが、部員が170名もいると2人では指導が行き渡りません。2人の先生が他の先生方と連携して、種目(短距離、ハードル、走幅跳、走高跳、ボール投の5種目)ごとに分かれた時にも、それぞれの種目で指導に当たることができる体制を作っているのだそうです。そして更に、経験者である小林先生担当のハードルでは中学校レベルの指導を行なっているとのことでした。



一斉のスタートダッシュ

3点めは、「手作り金メダル」です。校長室を出てすぐ右の廊下の壁に、児童の活躍の写真とともに個人の名前入りの金メダルがいくつも掲げられています。これは校長先生の発案とのことですが、頑張った児童を学校をあげてたたえていこうということで行なわれているものです。陸上に限って言えば、大会で入賞した児童ばかりでなく、大会で自己記録を更新した児童にも与えられるとのことでした。掲示板に自分の金メダルが掲げられることは児童にとって誇らしい思いを得られるものであり、自分の名前もと励みにもなる素晴らしい手だてだと感心させられました。部活が頑張ってくれるのは学校の活性化につながり、たいへんありがたいことだと校長先生はおっしゃっていました。その言葉に応えるかのように、陸上ばかりでなく、マーチングも全国大会に出場する活躍を見せているとのことでした。



もも上げ練習

もちろん、陸上部独自の工夫もあります。1点めは、練習予定表に一味ということですが、練習は火、水、金、土(午前)の週4日(月、木は先生方の会議のためになし)であり、夏時間だと16:00~17:00が練習時間帯だと決まっています。そうした決まりきった事柄や行事にともなう変更点の確認に加えて、毎月の月目標が標語として掲げられています。一例を挙げると、「風になれ! 2010 陸上部員である前に元気でりっぱな作野っ子であれ」というものです。基本目標としては「やりきること」があるのですが、部の立ち上がり、試合期、長期の休みなどその時期に応じた目標が年間を通して掲げられ、その目標に沿って指導しておられます。取材当日に子どもたちの姿を見ることはできませんでしたが、子どもたちが目標に沿って生き生きと活動している姿が思い浮かぶような気がしました。

2点めは、練習内容の工夫です。小学校ですから、グラウンドはそれほど広くはありません。そこで170名ほどが活動するので、そこには当然のことながら工夫が必要になります。直線コースで100mほどの距離を8列で一斉に流しをすることでしたが、一斉に動くことで目が行き届くというわけです。もも上げのドリルも、5~6mの短い距離の中で正確に何回できたかという形で行なうなど、狭い中でも十分な活動ができるようにしているそうです。70回だったもも上げが100回できるようになったりということ、狭い中でも十分活動はできているというお話でした。

3点めは、記録の取り扱いです。個人種目は、標準記録を突破していれば全員が県大会に出場することができます。しかし、リレーは4人という枠があります。部員数が多いので選手決めが難しいのではないかと思ったのですが、4月からの記録は全てコンピューターに人力がしてあり、記録の伸び率も考慮して選手決めを行なうので、選手はすんなりと決まっていくのだそうです。小林先生は、数字が選手決めの材料になるばかりでなく、選手の励みにもなっているとおっしゃっていました。伸びを確認することができ、各自のモチベーションを高めるというわけです。取り組み始めたばかりの小学生の伸び率は大きいでしょうから、数字を見るのが励みになっていることには大いにうなずけます。



小林先生への取材

小林先生は、中学校で陸上競技を続ける選手がもっと多くなるとよいがとおっしゃっていましたが、小・中・高と継続して陸上競技に取り組む人が増えることを私も願わずにはられません。愛知の陸上が強くなるためにも、小学校の先生方が多くの学校でご尽力されることを願いつつ、ご報告とします。

(取材・文責 大西 敏功)

ち味はなんと言っても、試合での【集中力の高さ・勝負強さ】である。まだまだ発展途上の選手である。」(光ヶ丘女子高校 大沼広吉)

身近な先輩を手本にして、小中学生の中から一人でも多くの陸上競技愛好者が増えることを目指して、支部としても取り組んで行きたい。

(山内 満)

東三河支部

9月以降の当地区の活躍は止まることを知らず、特に女性陣の活躍は目覚ましいものでした。

鈴木亜由子選手(名大1年)は、インカレ5000mにおいて3位入賞。10月上旬の千葉国体、成年女子1500m・5000mで、実業団選手が多く出場する中で大健闘して2種目入賞(4位・6位)するなど、世界ジュニア以降も引き続き好調を維持しているのは頼もしい限りで、来るべき駅伝シーズンでも活躍が期待されます。

また、先輩に負けじと、萩原加奈子選手(高豊中3年)も国体少年女子B100mHで6位入賞しており、国体女子の得点源として大活躍しました。

このことに発奮したのか、中野真琴選手(豊岡中1年)が10月末のジュニアオリンピック全国大会Cクラス100mで優勝するなど華々しい活躍してくれました。

小学生も多くの選手が東海大会・全国大会出場を果たしており、先輩達に続けと頑張っています。

これまでの活躍は、本人たちの努力はもちろんですが、顧問の先生方の熱意溢れる日頃のご指導、更に家族の方々の並々ならぬご支援とご協力に敬意を表します。

東三河支部では、中・長距離の活躍はご承知の通りですが、久しぶりに女子の短距離陣が元気でジュニアを中心に盛り上がってきたのは、東三河地区の陸上競技界の今後を考えると明るい兆しだと思っています。

男性陣にも、昨年・一昨年と大活躍した鈴木祐太選手(豊川高1年)のようなスプリンターが現れることを期待します。

このほかにも、多くの有望な小・中・高生達がありますが、シーズンオフには、基礎・基本を大切にきて来シーズンに向けて大きな目標を持って努力することを願っています。

トラックシーズンは概ね終了して、いよいよ中・長距離選手の活躍する駅伝シーズンを迎えました。

駅伝王国の東三河は、今シーズンも11月7日の県大会で全国高校女子駅伝2連覇中の豊川(女子)が4年連続、豊川工(男子)が13年連続の全国高校駅伝出場を決めた。都大路での活躍が期待される。また、昨年記念大会出場は逃したがポテンシャルの高い豊川(男子)が今年も健在で、今後が楽しみである。

中学は、県大会で石巻(男子)が5年ぶり7回目の優勝をし、全国大会への出場を決めた。山口での活躍が期待される。豊川東部(男子)は2位、高豊(女子)は4位であった。

本年は、豊橋陸上競技場の第三種公認検定の更新年になります。11月より工事が始まり競技場利用に関してご不便をお掛けしますが、何とか工夫をされて来シーズンの準備をされることを希望します。

(夏目 輝久)

専門委員会報告

競技・情報処理委員会

日本ジュニア・ユース選手権大会へのご協力、ありがとうございました。久しぶりの全国大会ということもあって、理解不足のために準備の遅れや大会運営面での支障があり、多方面にご迷惑をおかけしたことをお詫びします。また、資格審査や選手支給物準備などにおいて、競技情報委員会だけでなく、多くの方々のご協力をいただき、大会を無事終了できたことに、お礼申し上げます。

競技情報処理委員会は、県内の公認競技会の企画と運営を行なうことを主たる任務としています。具体的には、要覧の編集段階で大会期日、実施種目、大会会場、申込方法などを調整しながら決定します。

大会の申込締切り後、申込に不備がないかチェックをし、不明や不備な点を問い合わせながら、確認をしていきます。標準記録が設定されている競技会では、リザルトや記録証明書などで資格審査も行ないます。瑞穂競技場で行なわれるほとんどの競技会では、大型ビジョンを使い電光掲示で結果を知らせています。それを行なうためには、参加選手や種目・自己記録のデータをパソコンに入力する必要があります。申込用紙に不備があったり、入力したデータに不備があったりすると、プログラムに不都合が出てきます。締切日を厳守していただくとともに、申込用紙の記入を正確にさせていただくことで、プログラムの不都合もかなり減らすことができます。当日の大会運営をスムーズに行なうためにもご協力よろしくお願いします。

(安田 純久)

施設・用器具委員会

I 全国検定員会議と全国技術役員会議が、ルール修正対応と検定技術研修と情報交換を主として隔年で開催されている。今年は2010年11月6・7日に全国検定員会議が東京のナショナルトレーニングセンター会議室で開催されました。本県からは青木検定員が参加しました。現在の規則の修正の本部提案に全国の各検定員が意見を述べ検討しました。さらに、本部が参考にして内容をまとめ、日本陸連の理事会・評議委員会(12月3日開催)に提案して認められたら、2011年4月より施行され、今後ルールブックに反映されます。「第1種・第2種公認陸上競技場の基本仕様」の改定にともない、関連事項については「公認陸上競技場および長距離競走路ならび競歩路規程」も修正される。

〈改定における愛知に関係する主な課題について〉

- (1) トラックは8レーン又は9レーンとする。走路の厚さは13mm以上とする。直走路のスタートラインは付近の厚さは18mm以上とする。
- (2) 「第1種陸上競技場の補助競技場は第3種陸上競技場とする。また、舗装材は同等とし表面仕上げ及び硬度は主競技場と同一とする」

* 瑞穂陸上競技場は、本陸と北陸で同一ではない。継続検定に向けて、検定員による事前指導(ウレタンの劣化等)、業者による地盤の劣化等の調査をした。その結果に従って予算化されるので、厳しい財政状況ではあるが名古屋市教育委員会スポーツ振興

名岐駅伝いまむかし⑬

第18回大会(昭和27年) — 「第1部(一般・大学)」24・「第2部(高校)」44参加—

大日本紡織初優勝、中京商大会新記録で3回目の優勝



A:「浅井コーチ(左端自転車)の伴走で力走する杉浦選手」

大会当日の朝の気温は零下3度であったが、日中は快晴無風の好コンディションの下で熱戦が展開された。

第1部では、戦前の予想で優勢を伝えられた三重・東洋ベアリング桑名、岐阜・大日本紡織、幡豆走友が2区から三つどもえの接戦を展開し、1・2区は日紡、3・4区は東洋ベア、5・6区は幡豆が中継所を1位で通過するなど三者が激しい首位争いを演じたが、7区を1位で襷を受けた日紡(水田、松野、馬場、古田、和田、石野、堀部、村上)が4.28.41でゴールし、十数年ぶりに岐阜県勢のチームが優勝を遂げる。

第2部では、1区で岩津に首位を譲ったものの、2区以降は現役のオリンピック候補浅井のコーチと好リード(写真A)で、中京商(小塚、大脇、稲垣、水野、土平、柘植、杉浦、水鳥)が終始トップをキープし、4.29.18の大会新記録で優勝したが、選手選考に当たって全校生徒参加の予選会を3度にわたって行なったという。一方、愛知県勢は下記にみるように10位以内が3校に過ぎず、岐阜県勢の活躍が目立った大会でもあった。

なお、閉会式で日本が初めてオリンピックに参加した1912年第5回ストックホルムオリンピック大会のマラソンに出場した本大会名誉会長金栗四三が、遠路熊本から来名し「マラソンは、水泳競技とともに日本の希望である。中略。盛大な伝統ある大会を見てうれしい」と講評。また、当日は早朝から各学校の校長が多数姿を見せ、自校生徒の活躍を見守ったという。

2位以下の成績は下記のようなが、今大会については、新聞紙上に20位までしか掲載されていないため21位以下の成績は不祥である。

1部: ②幡豆走友 4.29.32 ③東洋ベア 4.30.53 ④名走友 ⑤渥美青ク ⑥愛知学大 ⑧豊橋青 ⑨八楽陸上ク
⑩香流青 ⑪三菱電機 ⑫半田走友 ⑬古知野走友 ⑭中日本重工 ⑮愛知県庁 ⑯豊田自織 ⑰瀬戸ク
⑱富士松ク ⑳国府青

2部: ②加茂 4.33.06 ③東濃 4.38.16 ⑤旭丘 ⑩大同工 ⑪尾北 ⑫安城農 ⑬犬山 ⑭岩津 ⑮半田農 ⑯新城
⑰津島 ⑱東邦 ⑳桜台

第19回大会(昭和28年) — 「第1部」24・「第2部」47参加—

渥美青年初優勝、中京商2連覇

朝の気温零下1.7度のなか、申込み72チームのうち棄権(2部1)を除く71チームが県庁前を1部と2部が10分間隔でスタート。

戦前の予想では、1部は三重日紡宮川から複数の選手を引き抜いて連覇を目指す日本紡績がやや有利で、これを東洋ベア、幡豆走友、豊橋、渥美青、愛知学大らが追う伯仲した接戦が予想された。

2部は昨年末の全国高校駅伝入賞の中京商が突出し、以下、豊橋工、東濃、大垣工らが続くのではという予想であった。

第1部では、2区で法政大在学中の切札伊藤が区間記録の力走でトップに立った渥美青(伊奈、伊藤文*、光嶋、柴田、伊藤富、富田、滝川、白井)が、7区で昨年の覇者日紡と抜きつ抜かれつの接戦を展開したが(写真B)、日紡の和田がトラックの上からの過度の声援を受けて後半ペースが落ちたものの、8秒差でアンカーに襷を渡す。しかし、結果的には、「日紡の2連覇を阻んだものは日紡応援団でもあった」(中日新聞・鈴木)と、過度の応援を批判したように、僅差で襷を受けた渥美・白井が区間新記録の好走をみせ、名走友の大会記録に迫る4.29.52の好記録で初優勝を飾る。

前回大会2部優勝のメンバーで、新年の箱根駅伝で活躍した法政大の大脇、土平らを主軸とする中京商クは、若手OBの練習不足が露呈して22位に終わる。

上記のように、多くの大学現役選手が出身の地域や学校OB等のチームで参加した大会でもあった。

第2部では、中京商(水鳥、杉浦、稲垣、杉浦、竹尾、小島、牧田、柘植)が、出足は1区5位、2区2位であったが、3区以降は終始トップをキープし、追走する東濃、大垣工、岐阜を振りきって2連覇を果たす。

2位以下の成績は下記のようなである。

1部: ②大日本紡績 4.31.23 ③豊橋青 4.32.59 ④幡豆走友 ⑦愛知学大 ⑨尾東ク ⑩古知野走友 ⑪新三菱
⑫名走友 ⑬豊田自織 ⑭愛知県庁 ⑮幡豆走友 ⑯常滑走友 ⑰西尾甚六 ⑱三菱電機 ⑳中京商ク ㉑名城大 ㉒新川走友

2部: ②東濃 4.36.40 ③大垣工 4.41.52 ⑤安城農 ⑥中商B ⑦新城 ⑨尾北 ⑩旭丘 ⑪大同工 ⑬西尾実
⑭津島 ⑮大府 ⑰田口 ⑱犬山 ⑲桜台 ㉑昭和 ㉒成章 ㉓名工芸 ㉔半田農 ㉕南山 ㉖名西 ㉗稲沢
㉘刈谷 ㉙東邦 ㉚名市工 ㉛明和 ㉜一宮商 ㉝瀧実 ㉞豊川 ㉟常滑 ㊱瀬戸窯 ㊲起工 ㊳西陵
㊴愛知 ㊵名城付 ㊶一宮

*伊藤文雄 法政大卒後、中央発條の中長距離選手として活躍。特に、昭和54～57年にかけて自己のもつ1500～10000の県記録を再三更新した。

注: 引用および参考資料等の一覧は、次号に一括掲載する。

(西垣 完彦)



B:「第7区・清州付近で競い合う渥美青・滝川選手(左)と日紡・和田選手(右)」(中日新聞 28・1・25)

課で検討してもらっている最中である。

- (3) 投てき用芝生は、投てき距離が十分であるようにスペースを確保する。多目的競技場の仕様を意図するときは、延長最大106m×69mとする。ただし、以下に定める条件に適合する競技場の延長最大107m×71mまで認める。延長を認める競技場の数は国47ヶ所以内とし検定時に以下の条件を満たさないことが判明した時は、公認の資格を取り消す。

〈条件〉

- ①多目的仕様として認められる第1種競技場
②全投てき種目における決勝の実施が可能であること
- (4) 移行措置が無くなり、「概設2種陸上競技場のハンマー投の囲いパネルの高さは9m、7mとする。」円盤投の囲いは従来通りであるが、ハンマー投の囲いで兼ねることができる。

*第2種陸上競技場では早急の予算化をお願いしたい。

- (5) 「第1種陸上競技場にのみ認められる付帯投てき場」
*今まで例外扱いの中京大学投てき場も今後公認期間(～2013.9.30)が過ぎると公認から外れることになるので対策を検討する必要がある。

Ⅱ 全国大会(日本ジュニア・ユース陸上)に向けての器具関係整備要望については、検定期間しか、なかなか認めて貰えないので、瑞穂陸上競技場(本陸)継続検定に向けての予算化が2012年になされますので要望をまとめ名古屋市に2011年5月末に提出できるよう準備をしています。青木検定員・平川技術役員に早めに具体的に提案して申し出てください。



Ⅲ 2010年11月20・21日の2日間で、安城市陸上競技場第2種公認検定を、陸連本部から高木検定員、愛知陸協から青木検定員と平川技術役員の3名で、地元西三支部の柴田理事長さんが見守るなか、順調に実施できました。晴天で気温が25℃以上(検定最適温度20℃)あり、温度補正が必要になりました。トラック走路の全面張替えとトラック走路とスタンドとの境に安全性を考慮した柵が完成しており、選手が走りやすい素晴らしい陸上競技場にリニューアルされました。A、Bゾーンの全面張替えが今後の課題です。

(青木 実)

審判委員会

トラックシーズンも終わり、各競技会の審判業務にご協力いただき感謝しています。

すでに、駅伝、マラソンなどのロードレースのシーズンに入りました。審判の方々には引き続きご協力をお願いします。

6月と11月にB級審判資格取得講習会を2回行ないました。6月に6名、11月には29名、合わせて35名の方が平成23年4月1日付けで新たに公認審判員の仲間入りをします。ご指導をよろしく申し上げます。

22年度のジュニア・ユースの全国大会には、多くの審判員の方々にご協力をいただき無事大会が終了しました。来年度もよろしく申し上げます。

最後に、毎回お願いをしています審判調査はがきの提出と、競技会での服装を整えるようにお願いします。

(榊原 茂)

選手強化委員会

千葉国体に選考された成年女子選手は3名のみ。入賞が期待できる選手が他に不在であることがその理由です。しかし、愛知のユニフォームからジャパンのユニフォームで世界ジュニアに出場し、入賞を果たした2名の選手がその存在を見せてくれました。

カナダ・モンクトンで開催された世界ジュニア選手権で5位入賞した鈴木亜由子選手が再び愛知のユニフォームを着て1500m、5000mの2種目、それも自己ベストで入賞、「亜由子復活」の国体でした。中学時代から愛知代表で活躍してきた鈴木選手ですが、故障に悩まされ苦しい時期を過ごし、それを乗り越えての入賞です。素晴らしい復活にチーム全体が勇気づけられました。国体の次は都道府県駅伝で再び愛知のユニフォームを着て走る姿を見せてくれることでしょう。

高校時代からライバル同士で凌ぎを削っている市川華菜選手(岡崎城西高→中京大)と今井沙緒里選手(至学館高→至学館大)は、国体では愛知のチームメイトとしてリーダー格に成長しました。鈴木選手同様世界ジュニア200mで入賞した市川選手は400mにエントリー。400mでのメジャーデビュー戦を4位入賞で飾りました。日本のトップレベルの選手の背中を間近に感じた市川選手がシニア日本代表の座を射止めるのは、時間の問題でしょう。愛知から育った女子3選手が今後日本代表として活躍できるよう支援するのも国体強化の目的の一つです。

千葉国体の総合優勝争いは、最終のリレー競技まで持ち越されました。2位となった埼玉県の入賞者数は15。本県は13でした。総合順位で振るわなかったのは、上位入賞を逃した結果でした。下位入賞数が多かった愛知の中で最高順位となった種目は、男子少年B走り幅跳びです。この種目で選考されたのは、1年生でインターハイに出場した野元選手(岡崎北)。ところが、野元選手が腰痛で出場ができなくなり、大会1週間前に急遽選手変更を余儀なくされたのです。「ピンチジャンパー」として指名した選手は同じ岡崎北高所属の二宮聡史選手。県新人で優勝し、絶好調であったことが選考理由です。国体選手合宿参加もなく、慌ただしい代表選出からの現地入りでしたが、1回目の試技で予選通過しました。同僚の野元選手の愛知ユニフォームを着てピットに立った決勝では果敢に攻めた跳躍で見事自己ベストで3位入賞、本県最高の順位を残しました。「愛知のためでもなく、野元のためでもなく、自分のために与えられたチャンスを活かせ」と送りだした言葉通りの大健闘でした。無念だった同僚の野元選手と競い合っていて、愛知のブロードジャンプを牽引してもらいたいと願います。

リレーは今年も男女ともに入賞を果たし、短距離愛知の伝統が継承できました。国体後のジュニアオリンピックでは、女子愛知チームが悲願の初優勝を成し遂げました。千葉国体の少年リレーメンバー男女4名は、全員ジュニアオリンピック県選抜チームから国体リレーメンバーに上がってきた選手です。ジュニアオリンピックでのリレーの強化策が、国体に早速繋がって来ました。それらの選手が成年代表まで成長できる強化策が今後求められます。

総合順位では十分満足できる結果ではなかった千葉国体でしたが、復活の兆しは見えてきています。ジュニアオリンピックから国体そして日本代表選手育成を目指した強化

を推進していく使命をスタッフ一同確認しました。

4995m までトップを歩き無念の失格を告げられた木村選手(弥富高)は無念でした。横一線のゴール判定でまさかの6位となった内藤選手(ミズノ)は、高校1年生から続いていた予選通過の記録が途切れてしまいました。一方期待された男女高校2年生選手が多く代表になったのも千葉国体の特色です。糟谷選手(中京大中京高)、北島選手(瑞陵高)の両ハイジャンパーは国体後の地元ユース選手権で優勝を飾りました。ユース選手権では墨(起工高)、高塚(名城大附高)の投てきコンビが入賞し、女子棒高跳の高木選手(中京大中京高)も国体同様8位でした。2年生国体代表選手の来年への期待が膨らみます。唯一の中学生代表で6位に入賞した萩原選手は、高校生を除くと中学トップでした。大学4年生で初の代表になった中野選手(愛知教育大)は、46秒台でファイナリストになりました。インターハイで同県同士の激戦を制し代表入りした折田選手(三好高)は国体でも力を発揮、ユースオリンピック候補に選出された浅井選手(光ヶ丘女子高)はベストジャンプで中学時代から続く全国大会連続入賞の記録を更新しました。女子100m山田選手(中京大中京高)は全ての

全国大会(インターハイ、国体、ユース選手権)でファイナリストになり、安定した力を見せました。

千葉国体代表選手は、全て強化指定選手からの選考でした。この選考結果から、オフシーズンに実施する強化指定選手の練習会、合宿参加の意義は国体選手団編成において重要であると言えます。換言すれば、強化練習会、合宿からチーム愛知編成は始まっていると強化委員会は考えます。従って県代表選考に大きく影響することを十分認識していただき、選手所属関係の皆様にはご理解願います。

大会期間中激励に駆けつけてくださった愛知陸協の皆様、支援コーチの先生方、深夜まで選手ケアに携わってくれたトレーナーの皆さん、大会直前交代をお願いした関係チームの監督さん、各選手所属のコーチの皆様には厚く御礼申し上げます。

(北村 肇)

記録委員会

全国大会としては、わかしゃち国体から16年ぶり、1985年の第1回から第10回まで瑞穂競技場で開催したジュニア選抜から第26回日本ジュニア・第4回日本ユ-

クラブ紹介⑭ とよた AC (トヨタアスリートクラブ)

私達のチームは2004年に「TAC」という名前で竹村小学校を拠点に発足しました。発足当初は小学生20名程でしたが年々人数も増え、小学校のグラウンドも子供会等でなかなか使用できなくなっていました。そんな中、私が現役時代在籍していたトヨタ自動車陸上部監督である樋高氏に相談したところ多大なるご尽力を賜り、2007年にトヨタスポーツセンターに拠点を移す事ができました。また、当時大変お世話になっていた「なごや陸上クラブ」の村上氏にアドバイスをいただき、チーム名をみんなに分かりやすい「とよた AC (トヨタアスリートクラブ)」と変更し現在に至ります。

活動目的は第1に健全なる心身の育成、第2にチームワークの育成、そして第3に自己能力の育成です。成績や結果を重視せずに礼儀やルールをしっかり守り、目標に向かって頑張る大切さとまず選手が「楽しい!」と感じられる活動を行なっています。そしてその思いを「強く」「楽しく」「元気よく」とスローガンにし、現在はコーチが5名、選手が小中学生合わせて約100名、そして選手をサポートしてくれる父母で頑張っています。



集合写真



大会前の挨拶

練習は毎週土曜日で、小学生は14時から17時、中学生は18時から21時で行なっています。また小中合同で毎週水曜日に、18時30分から21時で希望者のみの練習もしています。種目は小学生が短距離と走幅跳、中学生は短距離・走幅跳・ハードル・長距離です。小学生は小学生友の会や豊田市スポーツ少年団主催の大会やイベントを中心に参加し、中学生は中体連や愛知陸協・豊田市スポーツ少年団主催の大会やイベントを中心に参加しています。詳しくはホームページ《とよた AC》で検索してみてください。

私が指導者になった最大の要因は、ある日テレビで陸上部の廃部が全国で多数出ている事を目にした時でした。私の人生に陸上は欠かせないもので、まさに“陸上漬け”だっただけにショックでした。陸上はただ走るだけの競技ではない!もっと陸上の楽しさをみんなに伝えたい!これが今もとよた ACの原点にあり、コーチの方々にも選手・父母にも伝えて皆で協力しています。ゴールデンエイジと言われる小中学生が一番記録を伸ばす手段は、「楽しさの追求」と考えるからです。ただし挨拶や返事については厳しくし、これは愛知県で一番になりたいと思っていますが…。近年は全国大会等にも出場できるまでになりましたが、それよりも陸上楽しいと思える選手を、そして何より次のステージでも陸上がしたいと思える選手を育成したいと考えています。

(代表 川本浩一)

ス選手権大会として16年ぶりに瑞穂へ帰ってきた全国大会。コンディションにも恵まれ円盤投の日本高校新記録、大会新記録は12種目に17、大会タイ記録は4種目に4と成果のある大会となりました。リザルトは競技終了時間から40分から1時間以内で日本陸連のHPにアップすることができ、紙によるリザルトは最低限の部数としました。

今年、県内の公認トラック&フィールドは、119競技会開催されています。愛知陸協、各支部の主催による102競技会、東海学連等は17競技会の開催となっています。これらの競技会は11月20日で全て終了し、各支部記録委員長はじめ記録担当者のご尽力により報告を受け、全て公認記録申請を終了しました。並行して10月から中学校各支部の駅伝大会をスタートとして、ロードのシーズンに入っています。

記録委員会では、8月に1回目の記録のチェックを終え、1月上旬までに再度チェックし、日本陸連監修の100傑用資料、陸上競技専門誌等への記録の報告、愛知陸協2010年分10傑表の作成と、新記録等の確認、再度のチェックを済ませて印刷に入ります。発行は3月上旬の予定です。

2010年の新記録は、県新記録が男子2種目3・女子3種目6、高校新が女子1種目、中学新が男子2種目3・女子4種目、中学タイが女子1種目。

広報19号で予告しました愛知ジュニア記録を載せました。皆さんで確認くださり、訂正等ありましたら記録委員会までご連絡ください。訂正、修正をして、より正確な資料として3月発行の記録集に収録します。

◎ 広報第19号以降、確認した県記録等
愛知新記録

女子 100m 11.66 市川華菜 (中京大)
第79回日本学生対校選手権 (国立) 9月11日
400m 54.15 市川華菜 (中京大)
第65回国民体育大会 (千葉) 10月4日

中学新記録
男子 110mJH 14.71 古本 翼(とよたAC・みよし南)
第31回愛知ジュニアオリンピック (瑞穂) 9月3日

女子 4×100mR 47.68 愛知選抜
(中野真琴・杉山美貴・伊藤南侑・北野有紀)
第41回ジュニアオリンピック (日産スタジアム) 10月24日
100 + 200 + 300 + 400mR 2.20.24 千種
(橋詰奈々・早川有香・久保坂優子・山田晴帆)
第7回愛知レディース大会 (瑞穂) 7月4日

小学生最高
男子 4×100mR 49.16 安城ジュニア陸上クラブ
(大参祐輝・永谷礁汰・伊藤廉・川崎ライオン)
日本ジュニア・ユース選手権・招待リレー (瑞穂) 10月16日
4×100mR 49.51 安城ジュニア陸上クラブ
(寺本博之・永谷礁汰・伊藤廉・川崎ライオン)
第26回全国小学生交流 (国立) 8月28日
ボール投 81.54 M・クリスティラ (大須AC)
第27回県小学生リレー (瑞穂) 6月27日
4年走幅跳 4.47 中野裕仁 (JAC武豊)

女子 4×100mR 52.40 安城ジュニア陸上クラブ
(平塚由季・森下夏帆・木俣結子・樋口香華)
第27回県小学生リレー (瑞穂) 6月27日
混合 4年生 4×100mR 58.01 豊橋陸上クラブ

(米重美紅・生田奈緒子・松山卓暉・村田響)
日本ジュニア・ユース選手権・招待リレー (瑞穂) 10月16日
(岡田 武彦)

愛知ジュニア記録 平成22(2010)年12月31日現在

ジュニアとは、その年(1月1日～12月31日)に20歳の誕生日を迎えない競技者のことを言う。記録を出した時に19歳であってもその年の12月31日までに20歳になる場合は、ジュニアの記録として認められない。

男子

種目	記録	競技者名	所属	年月日
100m	10.41	長屋 憲明	中京高	90.8.26
200m	21.15	鈴木 大介	名古屋大谷高	08.7.19
400m	47.05	西畑 匡	中京高	93.6.18
800m	1.48.73	岩崎 万知	中京大	96.9.7
1500m	3.46.23	深谷 弘	早稲田大	88.9.10
3000m	8.12.52	田中 秀幸	豊川高	08.6.28
5000m	13.59.34	加藤 創大	早稲田大	08.4.15
10000m	28.35.74	内田 直将	駒沢大	00.12.2
10km	30.35	白井 侑	中京商高	64.2.9
20km	1.00.53	野宮 章弘	大東文化大	03.3.9
ハーフマラソン	1.03.13	鷺見 知彦	日本体育大	04.2.29
110mJH	14.09	高野 正基	尾張高	82.6.18
110mH	14.15	内藤 真人	法政大	99.8.18
400mH	50.71	山内 博貴	中京大中京高	08.10.4
2000mSC	5.43.39	岡部 寛之	豊川工高	05.7.15
3000mSC	8.53.88	山口 浩勢	城西大	10.5.2
5000mW	20.56.08	平野 博之	愛工大名電高	05.10.25
10000mW	43.16.23	森田 啓介	東京農業大	00.4.15
5kmW	21.24	野村 真司	名古屋大谷高	04.1.25
10kmW	43.06	小原 岳	名古屋大谷高	97.1.26
20kmW	1.28.22	平野 博之	金沢星稜大	06.11.5
4×100mR	40.55	古池 勁太 三浦 豊成 中村 健太 渡辺 将志	名古屋高	09.6.6
4×400mR	3.11.01	樋口 健太 堀田 尚利 小林 義明 佐橋 弘晃	中京大中京高	98.8.5
走高跳	2.18	宇野 雅昭	岡崎城西高	90.8.3
	〃	宮道 克憲	福岡大	96.5.19
棒高跳	5.30	有木 健人	日本体育大	01.4.19
走幅跳	7.73	西 航司	日本大	08.9.13
三段跳	15.73	村上 智史	名古屋大谷高	05.8.5
砲丸投 (6kg)	16.50	山中 敏道	名古屋高	03.6.28
砲丸投 (6.35kg)	16.21	山中 敏道	名古屋高	03.10.28
砲丸投 (7.26kg)	15.19	福田 紀久	東海大	89.7.1
円盤投 (1.75kg)	50.12	山中 敏道	名古屋高	03.6.29
円盤投 (2.0kg)	47.40	浅井 幹雄	中京大	85.11.2
ハンマー投 (6.0kg)	61.97	一柳 英之	名古屋高	09.6.19
ハンマー投 (6.3kg)	67.32	等々力信弘	名古屋学院高	85.8.31
ハンマー投 (7.2kg)	68.00	室伏 広治	中京大	93.8.1
やり投	67.90	下り藤修大	中京大	04.10.16
十種競技	7058	中村 明彦	中京大	09.9.5

[10.84 (1.1) - 6.74 (0.1) - 9.56 - 2.02 - 48.03 : 14.82 (2.0) - 25m18 - 4m10 - 39m70 - 4.08.24]

女子

種目	記録	競技者名	所属	年月日
100m	11.66	市川 華菜	中京大	10.9.10
200m	23.73	市川 華菜	中京大	10.6.18
400m	54.15	市川 華菜	中京大	10.10.4
800m	2.07.94	平田 雅子	東海銀行	99.5.8

千葉国体参戦記



勢揃いした選手団

少年男子 B 走幅跳 第3位

二宮 聡史 (岡崎北高校1年)

今回の国体への出場は本大会の1週間前に決まりました。国体に出場できる喜びより、不安のほうが強くありました。しかし、愛知県選手団の皆さんや、コーチの方々が温かく迎えてくださり、安心して試合に臨むことができ、いつも以上の力を発揮することができました。この国体で、多くの方々に応援していただき、支えていただいていることを改めて実感しました。

また、日本のトップレベルの選手を間近に見ることで、来季以降も全国レベルで技を競えるようになりたいと強く思いました。



全国大会での初入賞



成年女子 1500m 第4位 5000m 第6位

鈴木 亜由子 (名古屋大学1年)

今回の国体は3年ぶりの出場でしたが、チームの雰囲気がとても良く、リラックスして試合に臨むことができました。5000mでは中盤までは良かったものの、ラストで粘りきれず、悔しさの残るレースになってしまいました。1500mでは、スピードに不安がありましたが、レースの流れに乗ることができ、自己ベストを更新することができました。

2種目を走らせていただき、課題が見つかると同時に良い感触も掴めたので、これを機に、また上を目指して頑張りたいと思います。

成年少年男子共通 4×100mリレー 第5位

第1走 掛川 真 (豊明栄中)・第2走 田口 博崇 (中京大)・
第3走 服部 辰也 (中京大)・第4走 渡辺 将志 (名古屋高)

今回の千葉国体で4×100mRに出場させていただき、第5位に入賞することができました。2年連続でアベック入賞しているのは愛知県だけであり、愛知短距離のレベルの高さを他県に見ることができたと思います。しかし、優勝を目標とし、チーム一丸となって練習を行ってきたのですが、去年と同順位というのは大変悔しさが残りました。国体のリベンジは国体でしかできません。来年の国体ではキャプテンとして臨み、リベンジを果たしたいと思います。(服部 辰也)



男女アベック入賞

成年少年女子共通 4×100mリレー 第5位

第1走 山田 恵里 (中京大中京)・第2走 市川 華菜 (中京大)・第3走 松井 香保里 (中京大中京)・第4走 今井 沙緒里 (至学館大)

1日目から少年の選手を中心に良い波を作ってくれました。女子4×100mリレーでは、4人中3人が昨年と同じメンバーということもあり、4人の仲はすぐに深まりました。決勝で3位入賞は堅いだろうと思われていましたが、5位という結果で終わってしまいました。この悔しさを糧に、また各学校に戻り、毎日の練習に励みたいと思います。

女子全体のキャプテンを務めさせていただきましたが、先頭に立つ大変さを感じることができ、とても良い勉強になりました。今回のことを忘れることなく、日頃の生活を見直していきたいです。

愛知県選手団の監督、コーチの皆様、トレーナーさん、選手みんな、本当にお疲れさまでした。また、ありがとうございました。(今井 沙緒里)

第65回千葉県愛知県選手団競技成績一覧表

男女総合(天皇杯) 16位 64点 女子総合(皇后杯) 9位 40点

種別	種目	氏名	所属	記録	結果	得点	備考
成年男子	100m	田口 博崇	中京大	10.68	準決勝6位		
	110mH	内藤 真人	ミズノ	14.08	予選6位		
	400m	中野 弘幸	愛知教育大	46.87	6位	3	
	10000mW	杉本 明洋	ALSOK 総合警備保障	43.38.33	12位		
	棒高跳	谷口 直土	千種中教員		記録なし	10	
	ハンマー投	久保 浩司	中京大クラブ	56.65	18位		
	やり投	下り藤修大	小島プレス	66.32	12位		
成年女子	100m	今井沙緒里	至学館大	12.11	準決勝5位		
	400m	市川 華菜	中京大	54.15	4位	5	自己新
	1500m	鈴木亜由子	名古屋大	4.18.75	4位	5	自己新
	5000m	鈴木亜由子	名古屋大	15.37.83	6位	3	自己新
少年男子A	100m	渡辺 将志	名古屋高	10.74	準決勝6位		
	5000m	小島 秀斗	豊川工高	14.35.73	16位		
	400m	石原 颯	津島高	49.47	準決勝7位		
	400mH	石原 颯	津島高	53.61	予選3位		
	円盤投	墨 訓熙	起工高	39.07	27位		
	ハンマー投	墨 訓熙	起工高	56.36	13位		
少年男子共通	5000mW	木村 洋介	弥富高		失格		
	走高跳	糟谷 隆明	中京大中京高	2.03	4位	4	4位タイ3人
	棒高跳	折田 尚也	三好高	4.95	4位	5	
少年男子B	100m	掛川 真	栄中	10.88	準決勝4位		
	110mJH	角田 涼一	中京大中京高	14.66	7位	2	
	走幅跳	二宮 聡史	岡崎北高	7.05	3位	6	自己新
少年女子A	100m	山田 恵里	中京大中京高	12.17	8位	1	予選は自己新 12.11 (1.2)
	400m	木引悠起子	名女大高	56.89	準決勝5位		
	3000m	鈴木美乃里	豊川高	9.29.86	14位		
少年女子共通	走高跳	北島 菜璃	瑞陵高	1.66	5位	4	
	棒高跳	高木 志帆	中京大中京高	3.20	8位	1	
	やり投	高塚 裕子	名城大附高	40.86	18位		
少年女子B	100m	松井香保里	中京大中京高	12.57	準決勝6位		
	100mYH	萩原加奈子	高豊中	14.38	6位	3	
	走幅跳	浅井 真子	光ヶ丘女子高	5.67	5位	4	自己新
成少年男子	4×100mR	掛川 真 田口 博崇 服部 辰也 渡辺 将志	栄中 中京大 中京大 名古屋高	40.63	5位	4	
成少年女子	4×100mR	山田 恵里 市川 華菜 松井香保里 今井沙緒里	中京大中京高 中京大 中京大中京高 至学館大	46.18	5位	4	

種目	記録	競技者名	所属	年月日
1500m	4.17.19	川島亜希子	東海銀行	96.10.15
3000m	9.08.44	伊澤菜々花	豊川高	09.9.6
5000m	15.37.83	鈴木亜由子	名古屋大	10.10.1
10000m	33.54.36	川口 仁美	名城大	02.6.15
5km	17.26	杉浦 明子	愛知淑徳高	85.11.17
10km	33.13	川口 仁美	名城大	02.12.1
20km	1.26.15	林 由里子	中京女大附高	88.11.23
ハーフマラソン	1.12.29	川口 仁美	名城大	02.7.7
マラソン	2.59.14	伊藤 亜美	小島プレス	05.4.17
100mYH	14.23	谷 優奈	保見中	09.10.23
100mH	13.60	加藤 友里	安城東高	96.8.2
400mH	58.92	廣 真友子	市邨学園高	94.6.12
3000mSC	10.58.92	前野希代子	東京教育大	02.11.2
3000mW	13.13.99	石塚 侑子	惟信高	02.8.3
5000mW	22.56.80	福田 美穂	豊川工高	04.10.24
10000mW	50.13.87	石塚 侑子	惟信高	02.6.29

種目	記録	競技者名	所属	年月日
3kmW	14.36	岡田麻由実	惟信高	03.1.26
5kmW	22.54	石塚 侑子	惟信高	02.9.15
10kmW	50.53	山田絵梨奈	中京大	06.4.16
20kmW	1.48.42	石塚 侑子	順天堂大	03.11.2
4×100mR	46.04	鈴木 瑞笑 島崎 亜弓 口田ゆかり 鈴木 智実	市邨学園高	95.10.28
4×400mR	3.45.26	福島 優 小林 愛実 竹下 晴子 水口 小夜	愛知淑徳高	08.8.2
走高跳	1.87	今井 美希	中京女大	94.11.2
棒高跳	3.60	横井恵里香	中京大	07.10.14
走幅跳	6.19	安田 紀子	市邨学園高	93.8.4
三段跳	12.95	安田 紀子	中京大	94.11.2

種目	記録	競技者名	所属	年月日
砲丸投	14.26	今村 絹代	名女大	66.6.5
円盤投	54.12	室伏 由佳	中京大	96.9.21
ハンマー投	50.20	種村 真利	中京大	03.10.4
やり投	47.18	高塚 裕子	名城大附高	09.7.29
七種競技	4895	河崎梓穂瑠	佐屋高	09.11.8

[14.82 (0.5) - 1.55 - 9.43 - 25.81 (- 0.5) : 5.33 (- 0.5)
- 39.16 - 2.26.03]

関係団体報告

小学生友の会

小学生友の会の活動

1 “日清食品カップ” 第26回全国小学生陸上競技交流大会

平成22年8月28日(土) 東京 国立霞ヶ丘競技場

選手22人 総監督 大矢新吾 指導者・コーチ 8人

14種目中 5種目に入賞

男子4×100mR 2位 49.53

安城ジュニア陸上クラブ 寺本 博之 水谷 礁汰
伊藤 簾 川崎ライオン

5年女子100m 2位 13.58

川端 真奈 安城ジュニア陸上クラブ

6年女子100m 2位 13.09 掛川 栞 JACとよあけ

女子走高跳 5位 1.35 稲垣 聡乃 安城北部AC

女子ソフトボール投 8位 54.83

榑原 梨子 いっしき陸上クラブ

友好女子100m 1位 13.95

大原加奈子 安城ジュニア陸上クラブ

友好男子100m 1位 13.19

大参 祐輝 安城ジュニア陸上クラブ

ア 5・6年女子100mで川端真奈・掛川 栞の活躍が
光った。

イ 他の都道府県では埼玉・北海道・沖縄の活躍が目立
った。

ウ 非常に暑い日であったが天候に恵まれレベルの高い
大会であった。

エ 安藤百福記念賞がへきなん陸上クラブ杉浦平作氏の
長年にわたるクラブ員の指導の功績を賞して贈られ
た。

オ 来年度は「横浜開催」が検討されている。

2 第27回 東海小学生リレー競走大会の成績

平成22年8月29日(日) 松本市松本平広域公園陸上競技場

4×100mR 混合・女子・男子の3部に3チームずつ9
チームが出場しうち8チームが入賞した。結果は前号に
掲載。

3 第24回 愛知県小学生陸上競技選手権大会

平成22年11月3日(文化の日) 瑞穂公園陸上競技場

県新記録 大会新記録 女子5年 80mH

猪塚真希(なごや陸上ク)

県新記録 大会新記録 女子6年 混成2種A(100m+走高跳)

掛川 栞(JACとよあけ)

大会新記録 男子4年 走幅跳

中野 裕仁(JAC武豊)

大会新記録 男子6年 4×100mR

大参祐輝、永谷礁汰、伊藤 康、川崎ライオン(安城JAC)

4 3年後2013年に全日中大会を迎えるにあたり出場者
の中心になるのが今年の6年生…3年間の努力を期待し
ている。(大矢 新吾・村上 叡治)

中小体連

チーム愛知女子4×100mR全国制覇!!

10月22日(金)～24日(日)に横浜の日産スタジアムで第41回ジュニアオリンピック陸上競技大会が行なわれました。男子入賞6、女子入賞8と、昨年ほどまでとはいきませんでした。多くの種目で入賞することができました。とりわけ県選抜チームで臨んだ女子4×100mRでは、47.68で優勝することができ、昨年の男子優勝に続き快挙を成し遂げました。ここ数年、県選抜のリレーに関しては上位入賞を続けているので、次年度以降もこの流れを絶やさないようさらにチームを強化していく所存です。個人で見ると、全中に続きA100mで3位に入賞した掛川真くん(豊明栄中・3年)、A110mJHで4、5位のダブル入賞を果たした古元翼くん(とよたAC・3年)と三浦成皓くん(富貴中・3年)、昨年のC100mHで優勝し、今大会はB110mHで惜しくも2位だった岩崎聖くん(東海中・2年)、C1500mで3位ながら4.13.85という大会新記録をマークした飯島康介くん(西浦中・1年)、全中では5位、今大会A100mで3位となった杉山美貴さん(松下走塾・3年)、全中で8位、今大会A走高跳で2位となった杉浦澄美さん(福岡中・3年)、昨年C800mで2位、今大会B1500mで4位入賞した鷲見梓沙さん(沓掛中・2年)、C100mで今大会愛知で唯一の個人優勝を成し遂げた中野真琴さん(豊橋東部中・1年)らが中心となり、チーム愛知の活躍を大いに盛り上げました。

11月20日(土)に新城総合公園陸上競技場で第59回愛知県中学校駅伝大会が行なわれました。本年より、新たな開催地での大会となりましたが、東三河地区関係者のご尽力により、スムーズに大会を進めることができました。男子の優勝は豊橋市立石巻中学校、女子の優勝は稲沢市立祖父江中学校でした。石巻中学校は5年ぶり7回目の優勝、祖父江中学校は初優勝でした。特に女子の祖父江中学校は、2位の名古屋市立東港中学校と激しく競り合い、4秒差での勝利でした。優勝の両校は、12月19日(日)に山口県で行なわれます第18回全国中学校駅伝大会に愛知の代表として参加しました。結果は次号で報告します。

最後に、ジュニアオリンピックの県選抜リレーチームの強化に関してご尽力いただきました強化委員長の北村肇先生、男子監督の丹羽智行先生、女子監督の佐橋弘晃先生、各所属の監督の先生方、保護者の皆様方、また、私学祭、知多愛日秋季大会にオープン参加させていただくよう配慮してくださいました関係各位の皆様方、また、県駅伝大会の開催を中心となって進めていただいた東三河中小体連の榎谷幸郎先生、中小体連新城支所の石川武文先生、新城市内の体育主任の先生方をはじめ中体連の活動にご協力いただきました多くの皆様方に、厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。(久米 裕朗)

第41回ジュニアオリンピック陸上競技大会

女子4×100mR優勝 コメント

第1走者 中野 真琴(豊橋市立東部中学校・1年)

個人種目の100mでは、決勝進出が目標だったので、優勝して正直驚きました。4×100mRは、選手として選ん

でいただいた時から、このメンバーで日本一になりたいと思って練習してきたので、夢がかなって本当に嬉しかったです。

第2走者 杉山 美貴 (松下走塾・3年)

私は2走のエース区間を走らせていただきました。目標であった日本一になることができ、感動しました。指導してくださった先生方、応援してくださった周りの方々にはすごく感謝しています。心に残る最高の大会となりました。

第3走者 伊藤 南侑 (とよたAC・2年)

私は、愛知県代表リレーメンバーに選ばれました。嬉しかったし、さらに頑張ろうと思いました。当日は、あまり緊張せずバトンを渡せ、自分の走りができました。優勝できたのも仲間のおかげです。来年も優勝したいです。

第4走者 北野 有紀 (愛知淑徳中学校・3年)

中1の頃から目指してきたリレーでの優勝をやっと成し遂げることができ、中学校最後のシーズンを最高の形で締めくくることができました。これは、先生方のご指導や多くの方々のサポートのおかげだと思っています。本当にありがとうございました。



前列左より
武山さくら (岩津中・1年)
中野真琴 (豊橋東部中・1年)
河合詩菜 (松下走塾・2年)
杉山美貴 (松下走塾・3年)
伊藤南侑 (とよたAC・2年)
北野有紀 (愛知淑徳中・3年)

高体連定通部



愛知県高等学校定時制通信制秋季陸上大会が、10月17日(日)知多運動公園陸上競技場で開催された。雨が予想されていたが、秋晴れの下、最高のコンディションとなった。

3000m 障害で1位の富山裕司選手(科技高刈谷)と2位の谷川徹選手(市立豊橋)が、全国でも上位入賞可能な走りで大会新記録であった。400mH 全国2位の相羽岳志選手(科技高刈谷)が自己新記録で、400m と共に2種目優勝。なお、開会式においても力強い選手宣誓を行ない、来年の愛知のエースとしての期待が高まっている。800m・1500m は、全国7位の都築惇選手(科技高刈谷)が2種目優勝。5000m は全国8位の片尾祐希選手(科技高刈谷)が自己記録を大きく更新して優勝。全国での上位入賞が期待できる。

女子は、全国4位の松木幸花選手(熱田)が実力通りの強さを発揮して優勝。400m は、奥村美樹選手(科技高刈谷)が200m と合わせて優勝。全国でも活躍できる記録である。砲丸投・円盤投を制したのは當間くみこ選手(碧南)、全国入賞を果たせなかった悔しさを来年に向けてほしい。

定通陸上の参加選手は決して多くないが、全国大会を見据えて、この秋季大会が新たなスタートとなる。今年、男女総合成績での入賞を逃した悔しさを来年は晴らしたい。

秋季大会と同じ日、瑞穂では全国ジュニア・ユース選手権大会が開催されており、審判員の確保に苦慮した。向こう5年ほど愛知で開催されるということで、定通大会を来年度から例年より一週間早い日程で開催できるよう準備を進めている。

(松橋 政人)

実業団

中部実業団駅伝を2012年目標に下呂市から新コース移転を模索

○第58回全日本実業団対抗陸上競技大会が9月24日(金)～26日(日)に今年は新潟市ビッグスワンスタジアムで開催された。総合成績では団体総合・男子総合ともに富士通チームが女子総合ではナチュラルが優勝した。愛知県チームでは団体総合でトヨタ自動車(5位)、小島プレス(7位)、男子総合ではトヨタ自動車(4位)にそれぞれ入賞した。○実業団女子駅伝中日本大会が10月17日(日)に岐阜県庁発着の6区間42.195kmで開催された。優勝はデンソーチームが3連覇を達成し、県勢では小島プレスが4位入賞して全国大会の出場資格を得た。

○第50回中部実業団対抗駅伝競走大会が11月14日(日)下呂市で開催された。開会式に先立ち、50回記念のセレモニーが開催された。鈴木泰信中部連盟会長から野村誠下呂市長に、感謝状と記念品として福祉車両のゴールドキーが手渡された。併せて地元行政および関係団体に対し、それぞれ感謝状と記念品が鈴木会長から贈呈された。

また、開会式および前夜祭も盛会のうちに開催された。この席上において鈴木会長から挨拶があった。25年の長きに渡り中部実業団駅伝を開催していることに対する心からの地元への感謝の弁と、2012年よりこの駅伝の開催地を移転する旨の挨拶であった。

駅伝開催地の移転について若干説明を加えておく。その理由は元旦の全日本実業団駅伝(ニューイヤー駅伝)は今年で55回の歴史を誇るが、中部連盟傘下のチームがまだ優勝がないことである。全日本の群馬のコースを想定したコースで何とか強化を図り、悲願の優勝チームを中部から出そうということが最大の理由である。決して中部連盟の勝手な思いつきや、他意があることではないことは関係団体にはご理解いただきたい。

そして、新コースが正式に決定した暁には、悲願である全日本実業団駅伝での中部連盟傘下のチームが優勝することが、四半世紀に渡り下呂市でお世話になった関係団体への恩返しと考えます。

大会成績は以下の通り

1位 トヨタ自動車 2位 愛知製鋼 3位 トヨタ紡織
4位 愛三工業 5位 NTN 6位 八千代工業
7位 トーエネック 以上7チームが元旦の全日本実業団駅伝(ニューイヤー駅伝)へ出場 (樋高 勇二)

マスターズ陸上

心豊かな長寿社会への貢献役

本県での第30回記念全日本マスターズ陸上競技選手権大会を無事に終えてから、早くも1年が経ちました。大会開催後の後遺症としてよく収支の穴埋めと会員減が課題となりますが、愛知の場合は皆さまのご協力のおかげで収支はほぼトントンでしたので、会員数の減が心配されました。昨年の会員数は340人。今年度はすでに323人が登録

愛知陸協関連事業聞き歩き その①エブリバディデカスロン大会 in 愛知

1. 東京エブリ大会について

1992年の3月、シーズンイン直前の東京・町田市の陸上競技場で「エブリバディ・デカスロン」大会が開催されました。東京を中心とした団体「ジャパン・デカスロンチーム (JDT)」の主催でした。現在の日本陸連混成部長である松田克彦氏、現在まで17年近く十種競技の日本記録保持者である金子宗弘氏をはじめ、混成競技の一流選手がスタッフとなり、十種競技の底辺拡大を目的にした大会であったと思います。



2. 愛知大会開催のきっかけ

その頃スタッフの一員でもあり、町田に視察に来ていたのが名城大附属高校の谷政人先生でした。JDTの小林敬和氏から「名古屋でも是非開催を」と強く請われ、当時東京大会運営に携わっていた毎日新聞社の石井朗生氏が名古屋に勤務していたこともあり、名古屋での大会開催が現実的になってきました。参加者の立場から私も関わることとなり、大会を成功させるため、谷先生はスポンサー獲得に東奔西走し多くの協力を得られました。

3. 第1回大会の思い出

11月という季節は朝夕がめっきり寒く、大会前夜は雨も降っていたと思います。雨の降る中を、スポンサーからいただいた賞品を運ぶために軽トラックで何度も名城大附属高校と瑞穂競技場（北陸上競技場）を往復したことが思い出されます。翌日の大会を晴天で迎えることを願って、夜遅くまで瑞穂宿泊棟で最後の準備とミーティングを重ねていました。第1回名古屋大会では、高校生の八種競技も実施し、その年の高校チャンピオンだった田野中輔選手（現富士通）も出場しました。二日目の第一種目である110mハードルでは、朝8時40分スタートという難しい時間の中、14秒11というすばらしいタイムで走ったことは衝撃的でした。この記録は現在も日本高校歴代11位に相当します。

4. 本田 陽先生の加入

第3回大会からは、ドイツを中心に活動しておられた本田陽氏が中京大学への赴任が決まり、運営に協力していただくことになりました。それまでは単に十種競技の普及ということで進んできましたが、小中学生への混成競技の導入ということにも取り組むことになりました。この頃から、東京大会は参加料の値上げや参加者の減少など、大会運営が厳しくなってきたようです。ちなみに、愛知大会は今年で15回目を迎えましたが、デカスロンの参加料6,000円は第1回大会から変わっておりません。

5. ユニークな種目

瑞穂北陸上競技場で行なわれた第3回大会では、飯田敦彦選手（当時中京大）による「30分デカスロン」が実施されました。100mのスタートから1500mのスタートまでを30分でやりきるといふものです。5種目目の400mと6種目目の110mハードルの間がとてつもないところですが、アイシングなどで対応し、見事に6239点でフィニッシュしました。この得点は現在30分デカスロン（扱いとしては1時間十種競技）のアジア記録です。七種競技の日本選手権者でもある佐藤さよ選手の引退セレモニーは、「30分ヘプタスロン（七種競技：4134点）」でした。

6. 審判・補助員と地元の協力

この大会は、本田先生の中京大学を中心とした100名を超える補助員と40名ほどの審判の方の協力なしには実現できません。一つの大会に公認競技と未公認競技が混在し、審判の方には運営面において大変ご迷惑をおかけしています。しかし、参加選手はとても気持ちよく競技をしており、リピーターが多いのもこの大会の特徴だと思います。そんな気持ちを審判の方々には大会のトレーナーをお渡しするなどして、ささやかなお礼に代えさせていただいています。また、1日目の夜には選手・スタッフ・審判・補助員の方々と懇親会が恒例行事なのですが、その際、第4回からの開催地である知多市には、ボランティアの方々の協力による豚汁などのサービスもいただいております。交流を深める場に一役買っております。

7. 巣立った選手たち

最近では、昨年の大会で七種競技の愛知県高校記録を更新した河崎梓穂璃選手（佐屋）が、今年の沖縄総体で準優勝しました。全日本インカレで準優勝した中村明彦選手（中京大学）も、高校時代には出場しています。オリンピックや世界選手権にも出場している中田有紀選手は、最初の名古屋大会では補助員をしていました。日本陸連混成部では、本大会をジュニア混成競技育成の登竜門と考えており、今年も日本選手権や高校総体入賞者も含めて大阪、千葉、山形など各地からエントリーがありました。

8. 15回大会を終えて

前述の本田先生、谷先生など諸関係者においては、愛知エブリ大会が15回も続くとはおそらく誰も考えていなかったらと思います。今回、小学生5種競技（キッズ・ペンタスロン）では夏の全国小学生大会で活躍した掛川栞選手（JACとよあけ）が優勝し、将来の有望な選手も育っています。毎年100名に近い「ビギナー（デカスロンの入門カテゴリー）」参加者に頭を悩ませ、いかにたくさんの方が事故なく十種目終えられるかに知恵を絞ってノウハウを積み重ねてきました。大会終了直後のディプロマ（記録証）の発行にまだまだ課題はあるものの、今後も今大会が例年以上に盛り上がる大会になりますよう、努力していきたいと思います。

（デカスロン大会事務局 大橋 一幸）

していますので、現在のところ17人の減となっていますが、最小限の減に留まったのではないかと思います。



今年度のビッグニュースは、11月21日に山口県山口市で行なわれた第23回都道府県対抗全日本マスターズ駅伝男子の

部で悲願の初優勝が実現できたことです。景気の低迷、開催時期や場所の問題もあり参加チームは例年に比べて少ない状況ではありましたが、強豪チームのほとんどは参加していますので、ヤッターと言えると思います。

昨年の暴風雨と打って変わり、これ以上ない好天に恵まれました。第1区のトップと1秒差の2位に始まり、第2区でトップに立ち、第3区で一旦はトップから1分24秒差の7位に下がったものの、第4区から猛追が始まり、区間賞でトップから41秒差の3位、第5区で1チームを抜き2位、第6区では、井幡コールが渦巻く中、前を走る神奈川を抜きそのまま感動のゴール。初優勝となりました。

各区分すべての選手がヒーローでした。中でも第3区は55歳以上のクラスを60歳の選手が走りました。ハンデを乗り越え大いに健闘してくれたお蔭の栄光と言えます。

男子の部はこれまでの最高位は3位でしたが、若手のメンバーが揃ってきましたので、今後55歳以上のクラスで強化できれば、連続優勝も夢ではないと思います。

男子優勝の陰に隠れてしまいましたが、女子の部では4区分中初出場の選手が走った2区分間で区間賞を獲り3位。エルダーの部は女子の2区分間ですべて区間賞を獲りましたが、アンカーが2チームに抜かれて3位となりました。3部門すべて3位以内という立派な成績でした。

今年度の全国スポレク祭マスターズ陸上は富山市で開催され、外山修監督以下20名の選手を派遣しました。大いに成果を挙げました。

全日本選手権は9月17日から19日まで東京国立競技場で行なわれ、愛知からは122人が参加し、23人28種目で1位を獲得しました。この他女子4×100mR共通で1位となっています。特筆は中山淳子選手(名古屋市)が女子W50クラスの800m、1500m、5000mで中長距離3冠となりました。例年ですと各年代の競技種目が3日間に分散されていましたが、今年は年代別で競技日程が1日となりました。その日程における快挙でした。

会場：山口きらら博記念公園内特設コース 監督 松本 幸人

*男子の部 参加22都府県 1.48.26 1位

区間	距離	年齢クラス	選手名	所属
1区	6.4km	M40	夏目 勝也	TWRC
2区	5.2km	M60	神谷 留	館クラブ
3区	5.2km	M55	中村 利夫	トヨタSC
4区	5.2km	M50	下川 勝彦	トヨタSC
5区	5.2km	M45	村瀬 裕之	愛知製鋼
6区	6.4km	M35	井幡 政等	愛三工業

*女子の部 参加14都府県 1.02.37 3位

区間	距離	年齢クラス	選手名	所属
1区	5.2km	W35	平松 智子	スポーツ・デポ

2区	3.1km	W45	加藤 順子	菊里クラブ
3区	3.1km	W40	長坂 恵子	トヨタSC
4区	5.2km	E30	加古 光江	あいち健康の森

*エルダーの部 参加21府県 1.06.57 3位

区間	距離	年齢クラス	選手名	所属
1区	5.2km	W50	中山 淳子	愛教大名古屋
2区	3.1km	M65	大泉 通	東海走友会
3区	3.1km	W55	東 二三子	三好走ろう会
4区	5.2km	M60	佐野 昭二	愛知県庁クラブ



10月16日～19日、富山県で開催された第23回全国スポレク祭に出場させていただきました。4日間を通し天候にも恵まれ、よいコンディションの中、競技をすることができました。

私は、初めての参加ということもあり、自分のことで精一杯でしたが、仲間の声援や励ましに後押しされ、個人種目の100m、200mではシーズンベストで優勝でき、各リレー種目でも好成績を残すことができました。チーム全体としても皆、上位入賞を果たし、とても盛り上がったムードの中、大会を終えることができました。

今回参加させていただき、年齢を重ねたアスリートの方々の活躍は私にとって大きな刺激となりました。学生の時とは違って、マスターズとしてどのように競技に向き合っていくかということは今一度考えるよい機会となりました。また、日頃は地元のクラブチームに携わっており、競技レベルの向上だけではなく、生涯スポーツとしての陸上の普及のための活動を進めていく原動力となりました。

最後になりましたが、お忙しい中、準備にご尽力いただきました事務局の方々に深く感謝いたします。

(宮本 百合)

愛知陸協 OB 会



11月15日、恒例のOB会秋の行事が開催された。24名の会員の参加で紅葉と雪景色を堪能しながら、不動温泉と南信州松川町での「りんご狩り」を楽しんだ。

8時50分名古屋駅新幹線太閤口広場を出発したバスは、名古屋高速、中央道を通って、一路不動温泉(華菱)へ。露天風呂に入り秋の風情を楽しみながら、自然の息吹にやさしく包まれて日頃の疲れを落とし、囲炉裏料理に舌鼓。その味はまた絶品。そして「りんご狩り」。もぎ取ったリングを頬張りながら、満足感を味わえたひと時であった。帰りの車中では、カラオケに花が咲き、日頃の練習の成果を披露。名古屋到着18時。世話人の努力により、楽しい一日を無事に過ごすことができた秋の行事であった。

なお、次回新年の行事は、名古屋支部の担当で1/25・26(火・水)ピラマリン南知多にて実施予定。多くの参加を。
(村瀬雄一郎)

競技会報告

平成22年度愛知県高等学校新人体育大会陸上競技大会
平成22年9月25日(土)・26日(日) 瑞穂公園陸上競技場

男子 (GR:大会記録)

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	1	渡辺 将志	名古屋	10.74
	2	寺田 健人	栄徳	10.78
	3	笹田 康弘	東海	10.97
200m	1	寺田 健人	栄徳	22.04
	2	宮崎 海悠	名古屋大谷	22.41
	3	笹田 康弘	東海	22.53
400m	1	岡田 壮平	名古屋	48.83
	2	山田 涼馬	一宮	49.50
	3	植村 英佑	滝	50.02
800m	1	黒川 大地	日進西	1.56.55
	2	杭全 夢丸	岡崎城西	1.57.00
	3	新橋 基功	岡崎城西	1.57.70
1500m	1	大川 瞬	愛工大名電	4.03.08
	2	東 瑞基	愛知	4.03.54
1500m	3	新橋 基功	岡崎城西	4.04.59
5000m	1	神野 大地	中京大中京	15.01.76
	2	中村 駿介	岡崎城西	15.02.52
	3	村田 和也	惟信	15.12.16
110mH	1	山本 卓哉	国府	15.15
	2	川浪 駿	名城大附	15.29
	3	里地 勇飛	中京大中京	15.29
400mH	1	岡田 壮平	名古屋	53.46
	2	植村 英佑	滝	54.36
	3	三浦 央頌	名古屋	54.85
3000mSC	1	木谷 充稀	横須賀	9.38.80
	2	平松 大輔	豊川	9.46.89
	3	平松 翔太	岡崎城西	9.50.18
5000mW	1	小谷 亮太	千種	23.03.14
	2	皿井 泰光	半田	23.24.72
	3	田坂 剛志	三好	23.26.91
4 × 100mR	1	掛村 将之 渡辺 将志 藤ヶ崎 慎也 大山 顕寛	名古屋	42.32
	2	田中 威史 長田 拓也 木村 祐貴 原 捷太	豊川	42.69
	3	岩田 亘平 笹田 康弘 田中 宏昌 高橋 周治	東海	42.77
4 × 400mR	1	里地 勇飛 佐藤 晃浩 清水 陽平 松本 優一	中京大中京	3.21.64
	2	三浦 央頌 岡田 壮平 近藤 啓太 青木 貴司	名古屋	3.22.32
	3	松尾 有貴 鷺見 建亮 杉浦 涼太 宮崎 海悠	名古屋大谷	3.23.97
走高跳	1	川端 哲矢	岡崎城西	2.06 GR
	2	糟谷 隆明	中京大中京	2.00

種目	順位	氏名	学校名	記録
走高跳	3	安藤 良介	名城大附	1.97
棒高跳	1	橋本 佑輝	三好	4.60
	2	梶浦 悠	豊川	4.30
	3	可知 琢朗 小木曾優作	中京大中京 中京大中京	4.00 4.00
走幅跳	1	二宮 聡史	岡崎北	6.91
	2	鈴木 舜也	成章	6.90
	3	糟谷 隆明	中京大中京	6.69
三段跳	1	青木 貴司	名古屋	13.80
	2	塩澤 昂平	岡崎城西	13.61
	3	北川 翔馬	向陽	13.53
砲丸投	1	越 寛将	至学館	14.52 GR
	2	清水 大樹	春日井商	14.38
	3	白石 健太	名古屋	14.34
円盤投	1	小出 拓実	名古屋	42.62 GR
	2	墨 訓熙	起工	38.84
	3	越 寛将	至学館	38.43
ハンマー投	1	墨 訓熙	起工	56.74 GR
	2	滝 貴裕	津島北	49.98
	3	佐々木真理	名古屋	49.09
やり投	1	八木 一憲	大府	56.43
	2	尾崎 敬介	名城大附	52.51
	3	前田 大貴	春日井商	51.29

男子総合成績

部門	順位	学校名	得点
総合	1	名古屋	69
	2	岡崎城西	34
	3	中京大中京	33
トラックの部	1	名古屋	39
	2	岡崎城西	23
	3	豊川	21
フィールドの部	1	名古屋	30
	2	中京大中京	16
	3	春日井商業	12

女子

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	1	山田 恵里	中京大中京	12.31
	2	松井香保里	中京大中京	12.52
	3	飯田 美咲	名城大附	12.58
200m	1	山田 恵里	中京大中京	25.22
	2	松井香保里	中京大中京	25.64
	3	成瀬 玲子	豊明	26.11
400m	1	吉川 侑希	中京大中京	58.73
	2	青柳 妃咲	光ヶ丘女子	59.14
	3	坂木花乃香	愛工大名電	59.56
800m	1	服部 優亜	名城大附	2.17.75
	2	竹内麻里子	中京大中京	2.18.03
	3	青柳 妃咲	光ヶ丘女子	2.18.80
1500m	1	清田 真央	中京大中京	4.30.82
	2	西川かりん	中京大中京	4.35.13
	3	北本可奈子	千種	4.35.82
3000m	1	清田 真央	中京大中京	9.36.96
	2	山田悠未奈	中京大中京	9.55.27
	3	岩崎美希奈	西尾	9.56.54
100mH	1	飯田 美咲	名城大附	14.45
	2	白井 奈央	時習館	14.46
	3	兼子あさみ	中京大中京	14.53
400mH	1	兼子あさみ	中京大中京	1.03.60
	2	林 佑紀	横須賀	1.04.28
	3	各務 琴音	明和	1.04.75
3000mW	1	浜本 桂	千種	14.49.45
	2	川村 有加	至学館	15.49.42

種目	順位	氏名	学校名	記録
4×100mR	1	西川 彩乃	中京大中京	47.98
		山田 恵里		
		松井香保里 兼子あさみ		
	2	川治 梢	至学館	49.97
		松原 可依		
		中井 朝日 布施 和花		
	3	林 里奈	愛知	50.11
		水野 萌香		
		堀 このみ 山田信乃以		
4×400mR	1	西川 彩乃	中京大中京	3.59.07
		吉川 侑希		
		兼子あさみ 竹内麻里子		
	2	永井 孝奈	愛知	4.03.58
		矢沢小百合		
		川口 真由 山田信乃以		
	3	馬淵 知佳	瑞陵	4.03.78
		北島 茉璃		
		堀井 優希 松田つみき		
走高跳	1	北島 茉璃	瑞陵	1.65
	2	鈴木麻莉華	安城学園	1.59
	3	松浦 唯子	成章	1.56
走幅跳	1	布施 和花	至学館	5.48
	2	浅井 真子	光ヶ丘女子	5.46
	3	酒井 瞳味	岡崎城西	5.33
砲丸投	1	近藤 瞳	津島北	10.61
	2	田中 英里	光ヶ丘女子	10.07
	3	芳賀恵里香	日進西	9.97
円盤投	1	近藤 瞳	津島北	33.34
	2	太田 奈穂	光ヶ丘女子	33.13
	3	田中 英里	光ヶ丘女子	32.80
やり投	1	高塚 裕子	名城大附	43.43
	2	浅井 美咲	至学館	39.33
	3	大山 葵	日進西	35.54

女子総合成績

部門	順位	学校名	得点
総合	1	中京大中京	90
	2	至学館	31
	3	光ヶ丘女子	31
トラックの部	1	中京大中京	87
	2	名城大附	22
	3	愛知	15
フィールドの部	1	光ヶ丘女子	21
	2	至学館	17
	3	日進西	13

第26回日本ジュニア陸上競技選手権大会
第4回日本ユース陸上競技選手権大会
2010年10月15日(金)～17日(日)3日間
名古屋市瑞穂公園陸上競技場 本県8位入賞のみ

ジュニア

種目	順位	氏名	学校名	記録
男子	100m	三輪 将之	中京大	10.50
	200m	田村 朋也	名古屋大谷高	21.34
	110mH (1.067m)	吉村 健吾	日本体育大	14.59
	棒高跳	山本 聖途	中京大	5.00
	やり投 (0.800kg)	小野 颯佳	同志社大	64.22
	女子	200m	市川 華菜	中京大

ユース

種目	順位	氏名	学校名	記録
男子	100m	8 渡辺 将志	名古屋高	10.95
	400m	4 山田 涼馬	一宮高	48.50
	110mH (0.991m)	8 清水 陽平	中京大中京高	14.46
	走高跳	1 槽谷 隆明	中京大中京高	2.07
	棒高跳	3 榎 将太	岡崎城西高	4.70
	砲丸投 (6.000kg)	7 清水 大樹	春日井商高	15.15
	ハンマー投 (6.000kg)	3 墨 訓熙	起工業高	57.33
女子	100m	8 山田 恵里	中京大中京高	12.44
	200m	8 山田 恵里	中京大中京高	25.34
	4×100mR	3 西川 彩乃 山田 恵里 松井香保里 森 佑紀那	中京大中京高	47.68
	走高跳	1 北島 茉璃	瑞陵高	1.75
	棒高跳	7 高木 志帆	中京大中京高	3.30
	三段跳	3 北島 茉璃	瑞陵高	11.70
	やり投 (0.600kg)	6 高塚 裕子	名城大附高	44.15

第23回全国スポーツ・レクリエーション祭富山大会
マスタース陸上競技大会(2位まで)
平成22年10月17日(日)～19日(火) 富山県総合運動公園陸上競技場

単独種目

氏名	所在地	年齢クラス	出場種目	順位	記録
外山 修	西尾市	M65	砲丸投	2	10.42
			やり投	2	36.86
加藤 春雄	豊川市	M60	400m	2	1.13.26
中村 勉	あま市	M60	砲丸投	1	13.44
			豊川 稔	岡崎市	M60
田中 英康	一宮市	M50	1500m	2	4.52.21
			やり投	2	44.88
斎木 基久	名古屋市	M45	円盤投	2	33.88
			100m	1	12.08
加藤 智久	岡崎市	M45	200m	2	24.38
			走幅跳	2	5.32
小高 孝二	豊田市	M40	三段跳	2	12.10
			100m	1	11.52
夏目 勝也	日進市	M40	200m	2	23.70
			5000m	2	15.33.55
小川 裕之	半田市	M40	走幅跳	2	5.95
			三段跳	2	11.70
家田 馨子	南知多町	W45	100m	1	14.09
			走幅跳	1	4.59
横山 龍子	あま市	W45	800m	2	2.48.41
			1500m	2	5.42.10
宮本 百合	一宮市	W40	100m	1	13.83
			200m	1	28.83

交流種目

出場種目	出場メンバー	順位	記録
男女混合ボール投	田中英康・家田馨子・中野トシ子	2	112.61
男女混合スウェーデンリレー	中野トシ子・加藤春雄・宮本百合・小高孝二	2	2.29.17
女子4×100mR	中野トシ子・家田馨子・横山龍子・宮本百合	1	59.59

第13回東海高等学校新人陸上競技選手権大会
平成22年10月23日(土)・24日(日) 草薙総合運動場陸上競技場

男子

(3位以内入賞・県分のみ GR:大会新)

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	1	渡辺 将志	名古屋	10.60 GR
	3	寺田 健人	栄徳	10.77
200m	3	寺田 健人	栄徳	21.68

種目	順位	氏名	学校名	記録
400m	1	山田 涼馬	一宮	48.20
	2	岡田 壮平	名古屋	48.97
800m	1	小林 良	明和	1.56.70
5000m	1	神野 大地	中京大中京	14.48.57
400mH	1	岡田 壮平	名古屋	53.27
	2	植村 英佑	滝	53.30
	3	原 捷太	豊川	54.09
3000mSC	2	木谷 充稀	横須賀	9.31.38
5000mW	1	小谷 亮太	千種	22.29.05
	2	戸松 弘成	一宮西	22.30.46
	3	河合 風悟	千種	23.22.30
4 × 400mR	3	木屋川内浩二 鷺見 建亮 杉浦 涼太 宮崎 海悠	名古屋大谷	3.18.82
走高跳	3	糟谷 隆明	中京大中京	2.05
棒高跳	3	橋本 佑輝	三好	4.60
走幅跳	3	鈴木 舜也	成章	7.00
砲丸投	1	清水 大樹	春日井商	15.08
	2	越 寛将	至学館	14.91
円盤投	2	小出 拓実	名古屋	45.20
ハンマー投	1	墨 訓熙	起工	61.62 GR
やり投	1	八木 一憲	大府	58.42

女子

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	2	山田 恵里	中京大中京	12.13
200m	3	山田 恵里	中京大中京	25.02
400m	3	坂木花乃香	愛工大名電	57.67
800m	1	竹内麻里子	中京大中京	2.18.20
	2	服部 優亜	名城大附	2.19.11
	3	青柳 妃咲	光ヶ丘女子	2.19.21
1500m	1	北本可奈子	千種	4.35.92
	2	横山友里乃	愛知	4.37.44
	3	今泉 志穂	東邦	4.40.68
3000m	1	服部 千秋	千種	9.55.32
	2	荻野 夏帆	時習館	9.55.33
	3	今泉 志穂	東邦	9.55.38
100mH	3	飯田 美咲	名城大附	14.52
400mH	3	山田 佑紀	横須賀	1.04.69
3000mW	2	浜本 桂	千種	14.30.83
4 × 100mR	2	西川 彩乃 山田 恵里 松井香保里 森 佑紀那	中京大中京	47.43 GR
4 × 400mR	2	山田 恵里 吉川 侑希 松井香保里 竹内麻里子	中京大中京	3.52.09
走高跳	2	北島 茉璃	瑞陵	1.67
	3	鈴木麻莉華	安城学園	1.61

第24回愛知県小学生陸上競技選手権大会
2010年11月3日(水・祝) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

少年

(PR: 県最高記録 GR: 大会記録)

種目	1位	2位	3位
4年50m	北村 祐人 7.68 成岩 SC 陸上	土岐 和也 7.69 作野 AC	村田 響 7.71 豊橋陸上ク
5年100m	氏田 貴之 13.60 知立ジュニア	筒井 幹太 13.79 豊橋陸上ク	柵木 友幸 13.81 わかっつる
6年100m	和田 瑞輝 12.44 田原陸上ク	永谷 礁汰 12.47 安城 JAC	松下 治樹 12.72 豊橋陸上ク
5年80mH	松岡 京 13.87 千代田橋 AC	小蘭 伸弥 5.15 JAC とよあけ	藤原 慶斗 15.50 作野 AC

種目	1位	2位	3位
6年80mH	柴田 有仁 13.03 JAC とよあけ	野田 貴文 13.53 豊橋陸上ク	山内 将輝 14.07 わかっつる
6年4 × 100mR	安城 JAC 50.27 GR 大参 祐輝 永谷 礁汰 伊藤 廉 川崎ライオン	TSM 52.20 榊原 裕能 近藤 壮家 原田 諒 中西 雄大	田原陸上クラブ 52.56 渡会 康貴 河合 希芽 山下 凌芽 和田 瑞輝
5年走高跳	松永 昂之 1.25 桜町クラブ	杉田 光 1.20 知立ジュニア	傍嶋 大輔 1.15 里町 AC 米津 朗 1.15 里町 AC 稲垣圭一郎 1.15 いっしき陸上
6年走高跳	小林 颯 1.30 今池 AC	平岩 嵩也 1.30 いっしき陸上	後藤 駿弥 1.25 豊橋陸上ク 鈴木 翔馬 1.25 今池 AC
4年走幅跳	中野 裕仁 4.47 GR JAC 武豊	中村 伊吹 3.82 JAC とよあけ	福見 涼 3.77 田原陸上ク
5年走幅跳	秋田 滉斗 4.36 YOUKI 陸上	石田 匠 4.34 JAC 武豊	天野 瞳汰 4.29 新城陸上教室
6年走幅跳	宮田 龍樹 5.01 知立ジュニア	太田 泰雅 4.63 里町 AC	福岡 峻生 4.43 なごや陸上ク
5年ソフトボール投	深津 翔也 49.59 安城明和 JAC	加藤 雅樹 46.25 大須 AC	山田健太郎 45.20 里町 AC
6年ソフトボール投	磯村 匠 68.02 安城明和 JAC	丸山 拓也 67.66 桜町クラブ	澁木 優典 67.13 桜町クラブ
二種競技A	坂本 勇太 1256 安城北部 AC	村田 大和 1137 なごや陸上ク	阿武 泰輝 1082 AC 一宮
二種競技B	佐藤 光 1459 豊橋陸上ク	後藤 勇哉 1316 布袋陸上ク	大谷 駿 1275 豊橋陸上ク

少女

種目	1位	2位	3位
4年50m	米重 美紅 7.85 豊橋陸上ク	冨塚日南々 7.92 JAC 武豊	渡部 純果 7.94 JAC 大府
5年100m	川端 真奈 13.39 安城 JAC	長谷川愛樹 13.71 なごや陸上ク	片山 栞里 14.24 安城 JAC
6年100m	樋口 香華 13.44 安城 JAC	釜田 留奈 13.48 なごや陸上ク	土谷 結衣 13.70 AC 一宮
5年80mH	猪塚 真希 13.95 PR GR なごや陸上ク	内田 裕巳 14.28 作野 AC	吉田 美森 14.86 豊川陸上教室
6年80mH	蛭川 真由 13.44 成岩 SC 陸上	花井 環 13.50 知立ジュニア	中村 奈緒 13.85 作野 AC
6年4 × 100mR	なごや陸上クラブ 54.42 モローネアンジェール 加納 礼菜 鈴木 瑞希 釜田 留奈	安城 JAC 54.66 大原加奈子 平塚 由季 木俣 結子 樋口 香華	TSM 55.28 前田 佳歩 山本 陽子 石富 蛍 渡辺 莉緒
5年走高跳	永田 佳子 1.20 豊橋陸上ク	柴田 悠 新美える結 村瀬 星良	田原陸上ク 片葩 AC 1.15 安城北部 AC
6年走高跳	榊原至佳子 1.37 成岩 SC 陸上	平林 綾夏 JAC 大府 稲垣 聡乃 安城北部 AC	1.30
4年走幅跳	平松 琴美 3.66 田原陸上ク	根津 菜琴 3.61 T・S・M	近藤 あみ 3.52 刈谷 AC
5年走幅跳	南野 有紀 3.92 とよた AC	宮川 杏奈 3.91 とよた AC	山下 睦実 3.86 YOUKI 陸上
6年走幅跳	長屋 美月 4.71 なごや陸上ク	熊崎 円香 4.51 布袋陸上ク	木村 七海 4.41 安城北部 AC
5年ソフトボール投	加納 汐織 39.36 なごや陸上ク	杉本 真歩 37.98 なごや陸上ク	増田 侑里 36.49 高浜 TSC
6年ソフトボール投	榊原 梨子 56.96 いっしき陸上	鈴木 蒼葉 48.33 JAC あつみ	守屋 紀香 47.84 YOUKI 陸上
二種競技A	掛川 栞 1876 JAC とよあけ	山田 陽菜 1501 PR 知立ジュニア	村原由樹子 1436 作野 AC
二種競技B	明星 光 1768 とよた AC	天草 音々 1757 YOUKI 陸上	加納 礼菜 1654 なごや陸上ク

男女混合

種目	1位	2位	3位
5年 4×100mR	安城 JAC - A 54.49 片山 菜里 川端 真奈 藤本 高壮 吉田 将	なごや陸上クラブ 56.54 猪塚 真希 長谷川愛樹 三輪 拓真 西村 太希	豊橋陸上クラブ A 56.62 土方 若菜 久野 景子 杉山 尚槻 筒井 幹太
	4年 4×100mR	安城作野 AC - A 59.45 坂部 花歩 安藤 帆南 中島 亨 土岐 和也	田原陸上クラブ A 59.59 鈴木 晴菜 海藤明日香 柴田 大地 福見 涼

第59回愛知県中学校駅伝大会

平成22年11月20日(土) 新城総合公園陸上競技場および園内特別コース
[男子] 距離約 18km (6区間) [女子] 距離約 12km (5区間)

順位	男子			女子		
	学校名	タイム		学校名	タイム	
1	石 巻	56.41		祖 父	42.39	
2	豊 川 東 部	57.20		東 港	42.43	
3	葵	57.36		竜 海	43.41	
4	城 北	57.38		高 豊	43.57	
5	吉 良	57.58		杏 掛	44.03	
6	豊 川 西 部	58.12		岩 津	44.12	
7	岡 崎 南	58.14		六 ツ 美 北	44.18	
8	福 江	58.16		逢 妻	44.45	

平成22年度愛知県高等学校駅伝競走大会

男子第61回・女子第22回全国高等学校駅伝競走大会愛知県予選会
平成22年11月7日(日) 知多運動公園陸上競技場～市道北浜金沢線
(男 42.195km・女 21.0975km)

順位	男子		女子	
	学校名	タイム	学校名	タイム
1	豊 川 工	2.07.57	豊 川	1.09.02
2	豊 川	2.08.40	中京大 中京	1.11.46
3	弥 富	2.10.09	岡崎学 園	1.13.46
4	愛 知	2.10.19	千 種	1.14.27
5	岡崎城 西	2.12.50	至 学 館	1.15.50
6	中京大 中京	2.12.50	光ヶ丘 女子	1.16.17

区間賞

男子

(* : 区間新)

区 間	氏 名	学校名	記 録
第1区 (10km)	小島 秀斗	豊川工	*30.01
第2区 (3km)	東 瑞基	愛 知	8.37
第3区 (8.1075km)	カレミズク	豊 川	*23.25
第4区 (8.0875km)	湯田 晟旭	豊川工	24.47
第5区 (3km)	西尾 尚也	豊川工	8.39
第6区 (3km)	平松 大輔	豊 川	15.17
第7区 (5km)	堀内 聖平	豊 川	15.20

女子

区 間	氏 名	学校名	記 録
第1区 (6km)	安藤 友香	豊川	*19.26
第2区 (4.0975km)	鈴木美乃里	豊川	13.30
第3区 (3km)	黒川沙莉愛	豊川	9.58
第4区 (3km)	鷺見咲也加	豊川	9.53
第5区 (5km)	ワйнаナムルギ	豊川	16.15

2010名古屋ハーフマラソン

2010年11月23日(火・祝)
瑞穂公園陸上競技場付属公認ハーフマラソンコース

男子の部

1 マーティン マサシ スズキ浜松 AC 1.00.29

2 ワンジュキ ジャコブ	愛知製鋼	1.00.32
3 メクボ・ジョブ・モグス	アイテム陸上競技部	1.01.12
4 白柳 智也	5 糟谷 悟	6 菅谷 宗弘
7 大塚 良軌	8 阿部 哲史	9 池田麻保呂
10 川 直人	11 水越 大輔	12 山内 貴司
13 浅羽 慶彦	14 船越 大輔	15 松本 淳
16 井上 裕彬	18 坂井 俊介	20 石田 康雄
21 佐藤 彰浩	22 住田 直紀	23 前田 貴史
24 下條 誠士	25 山本 修平	

女子の部

1 松岡 範子	スズキ浜松 AC	1.11.13
2 大南 博美	ユティック	1.14.50
3 田中 幸	スポーツ山形 21	1.16.08
6 加古 光江	7 安川 裕子	8 本庄 愉美
9 今村 京子	11 中山 淳子	12 杉浦美由紀
13 宮内 恵子	17 林 麻美	18 檜尾 園子
19 横井 仁香	20 加納 希美	22 遠松 純子
24 森 友紀		

男子第59回・女子第21回東海高等学校駅伝競走大会

平成22年11月28日(日)
知多運動公園陸上競技場～市道北浜金沢線 (男子 42.195km・女子 21.0975km)

順位	男子		順位	女子	
	学校名	タイム		学校名	タイム
3	豊 川 工	2.07.29	1	豊 川	1.09.39
5	弥 富	2.09.45	2	中京大 中京	1.11.17
6	愛 知	2.09.48	4	岡崎学 園	1.12.45
11	岡崎城 西	2.12.47	13	千 種	1.15.44
12	豊 川	2.13.14	15	光ヶ丘 女子	1.15.55
15	中京大 中京	2.15.53	17	至 学 館	1.16.53

区間賞

男子

(* : 区間新)

区 間	氏 名	学校名	記 録
第4区 (8.0875km)	小島 秀斗	豊川工	24.35

女子

区 間	氏 名	学校名	記 録
第2区 (4.0975km)	安藤 友香	豊 川	13.11
第4区 (3km)	岩出 玲亜	豊 川	9.41
第5区 (5km)	鷺見咲也加	豊 川	16.52

第5回愛知県市町村対抗駅伝競走大会

2010年12月4日(土) 愛・地球博記念公園

(GR : 大会新)

順位	市 の 部		町 村 の 部	
	タイム	GR	タイム	GR
1	豊 橋	1.33.40 GR	東 浦	1.36.25 GR
2	田 原	1.34.02 GR	武 豊	1.41.58
3	名古屋	1.35.23	一 色	1.43.29
4	豊 田	1.36.13	吉 良	1.43.36
5	岡崎	1.36.54	幸 田	1.45.29
6	刈 谷	1.38.10	阿久比	1.45.58
7	豊 川	1.38.21	東 郷	1.46.01
8	大 府	1.39.04	長久手	1.46.12
9	江 南	1.39.37	扶 桑	1.46.50
10	知 多	1.39.48	蟹 江	1.47.24



豊橋市チーム



東浦町チーム

区間賞 (○数字は区間を示す)

市の部

- ①山田日菜野 (みよし) 区間新
- ②パトリックエンド (大府) 区間新
- ③夏目 勝也 (田原) 区間新
- ④西川 優衣 (豊橋)
- ⑤西山 令 (岡崎) 区間新
- ⑥神鳥 雄司 (豊田) 区間新
- ⑦山崎 祐佳 (豊田)
- ⑧伊澤菜々花 (豊橋) 区間新
- 清田 真央 (田原) 区間新
- ⑨安部 哲史 (名古屋)
- 白柳 智也 (刈谷)

町村の部

- ①田中 里菜 (武豊) 区間新
- ②マイナディショナル (東浦) 区間新
- ③犬塚 勝美 (一色) 区間新
- ④加藤 彩香 (東浦)
- ⑤永山 周輝 (東浦)
- ⑥佐藤 倭 (阿久比)
- ⑦加古 光江 (東浦) 区間新
- ⑧西川かりん (武豊)
- ⑨阿宗 高広 (東浦) 区間新

理事会等会議報告

○常務理事会 22年9月17日(金)18時 教育会館

1 協議事項

- ①名古屋国際女子マラソンの大マラソン化に向けてマラソンフェスティバル(仮称)について
- ②その他

2 報告事項

- ①名古屋ハーフマラソン大会要項について
- ②全日本中学選手権結果について
- ③審判員の報酬について
- ④陸協事務所ホームページについて
- ⑤第45回全国ろうあ者大会視察について
- ⑥各委員会より
- ⑦その他

3 その他

○理事会 22年12月7日(火)18時 教育会館

1 協議事項

- ①任期満了に伴う役員を選任について
- ②各種栄賞候補者の推薦について
- ③愛知県体育協会表彰者の推薦について
- ④平成23年度競技会等の日程(案)について
- ⑤審判員昇格候補者推薦について
- ⑥都道府県対抗女子・男子駅伝の選手選考について
- ⑦2011名古屋国際女子マラソン大会について
- ⑧2011読売犬山ハーフマラソン大会について
- ⑨2011名岐駅伝競走大会について
- ⑩西田・高橋記念国際室内棒高跳競技大会について
- ⑪その他

2 報告事項

- ①日本陸連評議員会の報告
- ②ジュニアオリンピック大会結果報告
- ③福井スーパーレディース駅伝大会結果報告
- ④名古屋ハーフマラソン大会の結果報告
- ⑤全国強化担当者会議報告
- ⑥日本ジュニア・ユース大会報告
- ⑦U-15ジュニア発掘プロジェクト練習会について
- ⑧各専門委員会からの報告
- ⑨その他

3 その他

(稲垣 裕)

栄章

おめでとうございます



坂井田醇三氏 渡邊 正昭氏 石川 立恵氏 伊澤菜々花選手
 ◎平成22年10月1日(金)～5日(火)第65回国民体育大会陸上競技大会にて、会場の千葉県総合スポーツセンターで表彰式が行なわれました。日本陸上競技連盟から表彰された方は以下の皆様です。心よりお祝いをいたします。

(有功章)…日本陸上競技界への功労者
 國分 一郎(愛知陸協副会長・東海陸協理事長)
 (秩父宮章)…日本陸連・加盟団体への功労者
 坂井田醇三(愛知陸協常務理事・名古屋支部理事長)
 (平沼亮三章)…高校生指導者としての功労者
 渡邊 正昭(豊川工業高校)
 (河野謙三章)…中学生指導者としての功労者
 石川 立恵(鷹丘小学校)
 (春日 弘章)…高校生競技者として優秀な者
 伊澤菜々花(豊川高校一順天堂大学)
 (河野一郎章)…中学生競技者として優秀な者
 河室 裕貴(弥富中学一名古屋高校)
 当協会國分一郎副会長が下記の表彰を受けられました。心よりお祝い申し上げます。

◎平成22年11月10日(水)愛知県表彰条例により教育文化功労者として愛知県知事より県庁にて表彰されました。
 ◎平成22年11月3日(水)名古屋市教育委員会より生涯スポーツの普及振興に多大な貢献が認められ名古屋市教育センターで表彰されました。(稲垣 裕)

おくやみ

長年本県の陸上競技発展のため多大なるご尽力をいただきまして、ありがとうございました。
 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)
 逝去者氏名 逝去年月 支部名
 森 満寿男 22・9 尾 張

編集後記

◆アジア大会での日本選手団の活躍は素晴らしいものがあった。特に100・200m2冠の福島千里選手の走りには感動を覚えた。◆たくさんの方々のご支援とご協力により、ホームページが一新し、速やかに情報を得ることができるようになった。多くの方々のご活用を。「愛知陸協広報」誌も、創刊号(平成17年1月)からすべてをインターネットで見ることができるようになった。◆今年度もあと3カ月。新年を迎えて、「今年こそは…」という気持ちを持ち新たな一步を踏み出したい。◆広報誌も20号、みんなのための情報誌でありたいと常に願っている。たくさんの方々のご支援ご協力に多謝!

編集委員

- 占部 輝之 大久保真理子 大西 敏功 外山 修
- 中尾 洋一 新美 準人 西垣 完彦 野口 一昭
- 山本 三郎